

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	羽田 邦弘、狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

教育課程編成の実際について、経験を元に講じます。羽田先生：埼玉県高校教師として長年勤務。狩野：87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。教職課程において、中学校、高等学校教諭一種免許状に関わる科目である。卒業に必要となる科目ではなく、中等教育の教育職員免許状(養護教諭、栄養教諭を含む)を取得するために、必要となる科目である。

科目の概要

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

授業の方法

主として、講義による。講義において、グループ討論やグループ発表、個人研究成果の発表など、主体的、活動的な学修活動を展開する。

到達目標

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

内容

アクティブラーニングとして、討論、学生の発表、省察、リアクションペーパーとその交流を図ります。

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校

- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善
- 【第15回】まとめ これからの時代の教育課程を再考する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】カリキュラムのあり方について、予想や仮説を持ち、経験をもとに疑問点をまとめて講義に臨む（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を踏まえ、カリキュラムのあり方を再度考察し、ノートづくりを行なう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加（20点：主体的、活動的な学修状況確認）、課題への取組（40点：基本概念、歴史、史・理論の理解確認）、まとめのレポート（40点：見方、考え方の理解確認）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーを提出し、その内容を次回の授業時に紹介しながら、内容の定着を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

- ・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所
- ・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校教諭一種免許状・高等学校一種免許状取得に必要な「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の必修科目である。

科目の概要

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から実施された「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解する。あわせて、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら思考し、判断し、道徳的に行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

講義のほか、知識の定着をはかるための小テストを講義の前半に実施する。授業では、終盤にリアクションペーパーを記述する(発表も含む)。内容に関する小課題について、グループでのディスカッション、発表を行うことがある。【リアクションペーパー】【小テスト】【ディスカッション】【グループワーク】、【討議・討論】

到達目標

- ・道徳教育の意義や課題、道徳教育の本質や理念について理解し、説明することができる。(リアクションペーパー 15%)、小テスト含む筆記試験 25%)
- ・学校における道徳教育と「道徳科」の授業の果たす役割について理解し、説明することができる。(リアクションペーパー 15%)、(小テスト含む筆記試験 25%)
- ・道徳科教材をもとに、「道徳科」の授業の内容を組み立てることができる。(提出物 20%)

内容

本授業は、講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

1	現代社会と道徳
2	道徳とは、道徳的に行動するとは / 道徳教育の特質
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容等について
4	道徳科成立の背景、目標、内容
5	学校における道徳教育のあゆみ
6	教材の分析について
7	「考え、議論する道徳」と対話への道徳教育
8	道徳科における指導方法と授業について (自我関与的な学習)

9	道徳科における指導方法と授業について（問題解決的な学習）
10	学習指導案について
11	道徳科における評価について
12	道徳性の発達について
13	道徳性の発達について
14	モラル・ディスカッション・アプローチについて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次週に扱う内容に関連する教科書等の該当ページ（授業内にて指示）に目を通しておく（30分）。提出課題については、発表も含めて、十分に準備する（一つの課題につき2時間程度）

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省ホームページ掲載）について、授業時に扱った箇所を熟読する（30分）。ノートのまとめを行う（30分）。

評価方法および評価の基準

小テストおよび筆記試験50点、授業への取り組み（リアクションペーパー・提出物）50点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週以降の授業内にて紹介し、コメントし、質問等に答える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】荒木寿友／藤井基貴編著『道徳教育』ミネルヴァ書房、2019年。

【推薦書】授業時に適宜、紹介する。

【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』。ほか授業時に提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別活動 B		
担当教員名	小池 幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法施行規則(改正前・旧課程)に定める、中学校教諭・高等学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであり、また、養護教諭・栄養教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものでもある。受講者は、必ず履修を完了させる。

科目の概要

学校教育法施行規則に定められた中・高等学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動(高等学校はホームルーム活動)・生徒会活動・学校行事の3つの内容で構成され、これらを、目標である「集団や社会の形成者・・・」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力を、生徒に身に付けていく教育活動である。

授業の方法 (ALを含む)

本授業は、グループワーク及びグループディスカッション・全体でのディスカッションを中心に展開する。受講者一人一人が、自分の考えを持ち、積極的に表現することが授業ベースとなる。

到達目標

ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」の理解と、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付けることができる。

イ 「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の各内容の理解と実践的な指導方法を身に付けることができる。

ウ 3つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付けることができる。

内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気付き、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

中学校、高等学校とも3つの内容で構成されているが、中学校では学級活動と呼称し、高等学校ではホームルーム活動と呼称する。本授業では、学級活動・ホームルーム活動は学級活動として表記する。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け
2	特別活動の目標と3つの内容(学級活動・生徒会活動・学校行事)の係わり
3	特別活動における2つの話し合い方法(合意形成・意思決定に至る話し合い)と学級活動の関連

4	生徒会活動・学校行事の指導と評価の在り方
5	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
6	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その2(グループワークを中心)
7	指導案に基づいた学級活動(1)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
8	学級活動(2)の「ウ」心身ともに健康で安全な生活態度の形成の内容理解
9	学級活動(2)の「エ」食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成の内容理解
10	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
11	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その2(グループワークを中心)
12	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その3(グループワークを中心)
13	指導案に基づいた学級活動(2)(3)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
14	特別活動と学級経営・人間関係形成・社会参画・自己実現及び3つの学びの係わり
15	今日的教育課題に係わる特別活動の必要性和重要性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

到達目標ア レポート10% 平常点10%

到達目標イ レポート10% 平常点10%

到達目標ウ レポート10% 平常点10%

到達目標アイウに関する期末試験40%

評価の全体的な比率は、レポート30% 平常点30% 期末試験40%

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物 (東山書房)

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳 『教育を支えるもの』 黎明書房(2006年)

【参考図書】文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 政府刊行物 (東山書房)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定教科書を早急に揃え、本文について指定した部分について、必ず読み込んでおくこと。

毎回の授業終了後、本時に関連する課題のレポート提出があるので、欠席については格段の注意を払うこと。また、授業規律についても、教員免許取得の性格上同様である。

無断遅刻・欠席については極めて慎み、該当する場合は早めに、学内メールにて報告・連絡・相談することを厳守する。

科目名	教育方法 B		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目

科目の概要

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

授業の方法 (ALを含む)

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容

第1回：教育の方法・技術に関わる基礎概念(安達・星野)

第2回：教育方法の理論と歴史(星野)

第3回：学習理論の基礎(星野)

第4回：学習理論の展開(星野)

第5回：カリキュラム開発と類型(星野)

第6回：教育評価の理論(星野)

第7回：教育課程と学習指導要領(安達)

第8回：授業における教師の役割と指導技術(安達)

第9回：教授組織と学習組織(安達)

第10回：授業設計の手順と教材(安達)

第11回：教育メディアの活用(安達)

第12回：ICTを活用した授業設計(安達)

第13回：情報活用能力と情報モラルの指導(安達)

第14回：総合課題(安達)

第15回：まとめ(安達・星野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る(2時間)

【事後学修】総合課題の見直し(1時間)

評価方法および評価の基準

1 授業ごとの課題提出(30%)

2 最終試験の達成度(70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」(60%)

「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」(40%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

特に定めない

【参考書・推薦書】

・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化

・松田稔樹他著 学習者とともに取り組む授業改善 学文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生徒指導・進路指導 B		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職免許法に定められた「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止、キャリア教育の推進、組織的な生徒指導の在り方等について学修するとともに、自分自身の生き方を考える。

科目の概要

中高の教員に必要な、生徒指導及び進路指導・キャリア教育を円滑に進めていくために必要な知識・技能、指導力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。
- ・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。
- ・各学校における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。
- ・到達目標のレベルをC評価 (60点以上) とする。

内容

主体的・対話的で深い学びを通して、生徒指導、進路指導の知識を深め、実践力を養う。

1	ガイダンス、学生の生徒指導上の体験を振り返る
2	学習指導と生徒指導は両輪について
3	生徒指導でつきたい力とは
4	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 1
5	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 2
6	再発防止のための指導とは
7	健全な成長を促すための指導とは
8	児童生徒理解とは
9	学校のあらゆる場面での指導とは
10	生徒指導を活かしたより良い授業とは
11	給食の時間における生徒指導とは
12	教師による「懲戒」と「体罰」とは

13	いじめ問題について 事例3
14	進路指導・キャリア教育とは
15	中学校における進路指導の進め方

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を読み、課題をまとめる、(60分)

【事後学修】毎回の授業の課題を完成する。(60分)

評価方法および評価の基準

各到達目標の評価方法及び評価の基準

・生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。

評価の手段 筆記試験

・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

・各学校における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

評価の比率

筆記試験 40%

提出物 30%

平常点 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『生徒指導提要』,文部科学省,教育図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育相談 B		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員・スクールカウンセラーとして学校で児童生徒および保護者の教育相談・カウンセリングに携わった経験を持つ教員が担当し、学校での相談について演習を取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は教職課程の必修科目である。教育相談では児童生徒の発達と教育に関わる問題について心理的・教育的援助を行う。学校内で他の教員との連携による組織的な指導援助を行うことが必要である。子どもの声を受け止め、公平かつ受容的な態度で接することを学び、相互の意見交流をする体験を通し、教員として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につけ、教育相談の基本的な理解と、基本的知識と技能を学修する。

科目の概要

学校現場では不登校・いじめ・校内暴力・非行・虐待・貧困・学級崩壊などさまざまな問題が生じている。学校に通う児童生徒に発達障害・引きこもり・摂食障害など心理学的課題を数多く抱えているものがある。本講義では教育相談に必要な基本的知見の獲得、教育相談への理解を深めることを狙いとする。具体的には、教育相談に関係する相談援助技術に関する諸理論、問題理解のための基礎知識や理解の仕方、実際の困難例、外部機関との連携方法などについて実践的要素を組み入れた講義を行う。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心として、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、ケースメソッド、プレゼンテーションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【ディスカッション】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【プレゼンテーション】

到達目標

(1) 教育における教育相談の重要性を理解し、学校現場において児童生徒を指導するために身に付けておくべきカウンセリングに関する理論と技法等の基礎知識を説明することができる。(2) 評価するための知識と地域・社会・家庭との連携について理解し、説明することができる。(3) 個々の児童の児童生徒の状況を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができる。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、ケースメソッド、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談とは何か。今日的課題について	【リアクションペーパー】
2	学校教育における「教育相談」の位置づけと役割 ニテスト】	【グループワーク】【プレゼンテーション】【ミ
3	相談援助における児童生徒の理解	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】

4	児童期の人格形成と適応	【グループワーク】【プレゼンテーション】
5	思春期・青年期の人格形成と適応 テスト】	【ロールプレイ】【プレゼンテーション】【ミニ
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論	【グループワーク】【プレゼンテーション】
7	論教育相談・援助の基本 カウンセリング技法	【ロールプレイ】【プレゼンテーション】
8	児童生徒の行動の理解と対応：不登校 ミニテスト】	【グループワーク】【プレゼンテーション】【ミ
9	児童生徒の行動の理解と対応：いじめ	【ディスカッション】【プレゼンテーション】
10	児童生徒の行動の理解と対応：発達障害	【ディスカッション】【プレゼンテーション】
11	児童生徒の行動の理解と対応：非行 ミニテスト】	【ロールプレイ】【プレゼンテーション】【ミ
12	教育相談の実際（事例から学ぶ）：校内連携	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】
13	教育相談の実際（事例から学ぶ）：家庭・地域との連携	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】
14	教育相談の実際（事例から学ぶ）：事件・事故・災害時の緊急対応	【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】最近の児童生徒を取り巻く問題について新聞、ネット（出所を明確にする）等で調べ、資料を作成する。各自がテーマを選択し、プレゼンテーションを行う。（各授業に対して45分、プレゼン制作に180分）【事後学修】授業で取り上げたテーマについてホームページ、新聞、図書で各自内容の理解を深め各自のテーマをまとめる。ミニテストの問題を検討する。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度10% 毎回のレポート10% プレゼン20% 試験60%により評価を行い、60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎授業で前回授業の内容についての質疑への返答、教員採用試験問題の検討を行う。レポートについてはコメントを記載し、返却する。試験については試験後に解答し、質疑応答時間を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】森田健宏・吉田佐治子編著 教育相談 ミネルヴァ書房
漆澤恭子 編著 クラスと授業のユニバーサルデザイン 明治図書
学校心理士資格認定委員会 編 学校心理学ガイドブック 風間書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生徒指導		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「教科に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」(教育職員免許法に規定)である。演習を主とし行い、生徒指導が児童・生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、社会的資質や行動力を育成するものである。教員として必要不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止やキャリア教育の推進、学校が組織的に児童・生徒の指導育成を進める方策などを学修する。

科目の概要

生徒指導は、学習指導とともに学校教育の重要な機能であり、児童・生徒の人間性の発達を支援することや、自己肯定感を高め、自律的に行動する資質や能力を高めること。家庭や地域社会、教育相談機関等の青少年の健全育成諸機関等との連携を図る方策などを修得するものとする。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。
- ・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。
- ・校長を中心とした組織体としてワンチームで生徒指導を推進することの重要性を理解できる。
- ・到達目標のレベルをC評価(60点以上)とする。

内容

知識や技術に加え、思考力や判断力、対話力、学びに向かう力を育て、心豊かで積極的に社会参加し、自己を活かしていることとする児童・生徒を育成することが必定である。このため、教師にならんとする者は、幼児期から児童期、青年期に至る発達段階のそれぞれの特性を深く理解し、実際に即した指導力を身に付けなければならない。本講座では、問題解決討議法、役割等技法、事例研究法、シミュレーション技法等を援用し、生徒指導に係る諸課題の解決に資する知識や技能の修得と活用を行う。

1	1. ガイダンス。生徒指導上の体験の確認について。
2	2. 生徒指導で児童生徒につけたい力について。
3	3. 生徒指導上の問題発生時の指導について。個別指導。
4	4. 生徒指導上の問題発生時の指導について。集団指導。
5	5. 生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導について。
6	6. 健全な成長(教育の目的)を促すための指導について。
7	7. 「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」、児童理解について。

8	8. 全ての教育の場における生徒指導について。
9	9. 生徒指導を活かした、より良い授業について。
10	10. 生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導について。
11	11. 教師による「懲戒」と「体罰」について。
12	12. いじめ問題について。
13	13. 積極的な生徒指導について。
14	14. 組織的な生徒指導について。
15	15. 学級担任としての生徒指導の力量について。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキスト『生徒指導提要』を読み込む。事前課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】ノートの一部を学習の振り返りスペースとして利用し、要点を整理する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

各到達目標の評価方法及び評価の基準

・生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。

評価の手段 筆記試験

・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

・校長を中心とした組織体としてワンチームで生徒指導を推進することの重要性を理解できる。

評価の手段 提出物、平常点

評価の比率

筆記試験 40%

提出物 30%

平常点 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『生徒指導提要』文部科学省 教育図書株式会社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教職に関する科目のうち栄養教諭免許取得に必要な「教育課程に関する科目」に当たります。栄養教諭一種免許状を取得しようとする場合は必修に、また栄養教諭二種免許状を取得しようとする場合は選択必修になります。

科目の概要

学習指導要領に示された道徳及び特別活動それぞれの趣旨にそった指導ができるよう、模擬授業等も交え、具体的に考察します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・ 特別の教科である道徳科について考察し、理解する。
- ・ 特別活動の領域ごとの特色について理解し、指導の在り方を考察する。
- ・ 道徳科及び特別活動の各領域の指導の在り方を理解し、それぞれの学習指導案を作成する。

内容

講義を中心として、基礎的；基本的事項の理解を図ります。また、模擬授業を実施し、グループワークを通じて意見交換をする中で、よりよい指導の在り方について考察します。

1	オリエンテーション（授業の進め方と学修目標）
2	学校における道徳教育の目標と意義
3	特別な教科「道徳科」の内容
4	道徳科の指導と評価
5	道徳教育推進教師の役割
6	特別活動の目的と展開
7	学級活動について（1）
8	学級活動について（2）
9	生徒会活動について
10	学校行事について（1）
11	学校行事について（2）

12	指導案の考察（１）
13	指導案の考察（２）
14	指導案の発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当ページを読んでから授業に臨む。（各授業に対して30分）

【事後学修】毎回の授業後に、所定のレポートを提出する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度と（30点）、小レポート（30点）、指導案の作成・発表及びまとめ（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの内容をシェアリングする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(文部科学省 平成29年7月)

中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省 平成29年7月)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健科教育法		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校において養護教諭としてTTでの保健の授業の現場経験のある教員が講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

科目の概要

小学校、中学校の学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための考え方を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心に、課題の発表を行う。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

学校教育における保健教育の役割を理解することができる。

保健授業のデザインと創造的実践の方法について、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習し、活用することができる。

内容

1	学校・授業での学習経験 保健学習の現場と課題
2	教育課程の位置づけと教育内容
3	保健科教育担当者とその資格
4	保健科教育のカリキュラム
5	保健の授業観、学習観
6	小学校保健の目標と内容
7	中学校保健の目標と内容
8	保健の教材と指導方法
9	保健授業の学習形態 (主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫)
10	指導の計画の立て方と指導案作成方法
11	教授テクニック 授業の実践事例
12	評価方法と考え方
13	諸外国の保健教育

14	授業のテクニック 授業の実践事例
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。[45分]

【事後学修】学習した内容をまとめるために復習が必要である。[45分]

評価方法および評価の基準

学校教育における保健教育の役割を理解することができる。[筆記テスト30%、レポート10%、平常点10%]

保健授業のデザインと創造的実践の方法について、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習し、活用することができる。[筆記テスト30%、レポート10%、平常点10%]

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

日本保健科教育学会 編 保健科教育法入門 大修館書店

参考書

森良一他 中学校・高等学校保健科教育法 東洋館出版社

文部科学省 改訂「生きる力」をはぐくむ小学校保健教育の手引き

文部科学省 改訂「生きる力」をはぐくむ中学校保健教育の手引き

岡出美則他 小学校新学習指導要領ポイント総整理 体育 東洋館出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健科教育法		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校において養護教諭としてTTでの保健の授業の現場経験のある教員が講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

科目の概要

授業展開にそって単元指導計画と学習指導案の作成を行いながら、授業デザインの方法を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

授業展開に沿って学習指導案を作成し、模擬授業を行い、互いに評価しあう。【模擬授業】【グループワーク】

到達目標

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成することができる。

保健授業のデザインと創造的実践の方法について、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習し、活用することができる。

内容

1	保健授業とカリキュラムマネジメント
2	「授業書」方式による保健の授業
3	保健の指導計画と指導案の作成
4	保健授業の実践例
5	保健の模擬授業とその振り返り
6	保健の模擬授業とその振り返り
7	保健の模擬授業とその振り返り
8	保健の模擬授業とその振り返り
9	保健の模擬授業とその振り返り
10	保健の模擬授業とその振り返り
11	保健の模擬授業とその振り返り
12	保健の模擬授業とその振り返り
13	保健の模擬授業とその振り返り
14	保健の模擬授業とその振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題発表の機会を多く設定する。発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。〔45分〕

【事後学修】学習した内容をまとめるために60分程度の復習が必要である。〔45分〕

評価方法および評価の基準

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成することができる。【レポート30%、平常点20%】

保健授業のデザインと創造的実践の方法について、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習し、活用することができる。【レポート25%、平常点25%】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**テキスト**

文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

日本保健科教育学会 編 保健科教育法入門 大修館書店

参考書

森良一他 中学校・高等学校保健科教育法 東洋館出版社

文部科学省 改訂「生きる力」をはぐくむ小学校保健教育の手引き

文部科学省 改訂「生きる力」をはぐくむ中学校保健教育の手引き

岡出美則他 小学校新学習指導要領ポイント総整理 体育 東洋館出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子、岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場で保健学習を担当した経験を持つ教員が担当し、生徒の実態を取り入れた講義を展開していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

科目の概要

保健科教育法 ・ を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。

「保健」の教員免許状取得希望者は本講義と後期に開講する保健科教育法 の受講を勧める。

また、養護教諭免許取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えている事から受講することを勧める。

授業の方法 (ALを含む)

保健学習の位置づけなど教科保健に関する基礎的な知識を基に、学生が行う模擬授業を中心に展開する【模擬授業】

到達目標

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いを理解できる。
- ・ 高等学校科目保健の教育実践事例を学び、その指導法を習得できる。

内容

この授業は指導案を作成し模擬授業を展開することで保健科教育を実践的に学んでいく。

1	ガイダンス、教育課程における保健教育 (鈴木・岡山)
2	高等学校科目保健の特徴 (岡山)
3	高等学校科目保健の特徴 (岡山)
4	評価の方法 (岡山)
5	担当模擬授業の指導案作成と授業準備 (鈴木・岡山)
6	担当模擬授業の指導案作成と授業準備 (鈴木・岡山)
7	担当模擬授業の指導案作成と授業準備 (鈴木・岡山)
8	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)
9	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)
10	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)

11	模擬授業と授業分析（鈴木・岡山）
12	模擬授業と授業分析（鈴木・岡山）
13	模擬授業と授業分析（鈴木・岡山）
14	まとめ（鈴木・岡山）
15	まとめ（鈴木・岡山）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指導案の作成や模擬授業準備の時間が必要（各模擬授業に対して3～4時間）

【事後学修】模擬授業等の振り返り、改善指導案の提出等（各模擬授業に対して1～2時間）

評価方法および評価の基準

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。到達目標の評価方法は模擬授業と筆記試験で評価する。評価基準は模擬授業作成の取り組みと模擬授業80%、筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された模擬授業コメントカードは授業内で評価をする。筆記試験は最終日のまとめにて返却し解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校保健体育科教科書、高等学校保健体育科教科書、文部科学省高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）

【推薦書】講義時に紹介する

【参考図書】文部科学省学習指導要領解説（小学校体育編・中学校保健体育編）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

免許取得に必要な科目であるため出席管理に留意し意欲的な参加を期待する。

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子、岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場で保健学習を担当した経験を持つ教員が担当し、生徒の実態を取り入れた講義を展開していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

科目の概要

保健科教育法 を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。中・高教諭一種免許状「保健」の取得希望者は受講を勧める。

また、養護教諭免許状取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えていることから受講することを勧める。

授業の方法 (ALを含む)

保健学習の位置づけなど教科保健に関する基礎的な知識を基に、学生が行う模擬授業を中心に展開する【模擬授業】

到達目標

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いが理解できる。
- ・ 高等学校科目の保健の教育実践例を学び、その指導法を習得できる。

内容

この授業は指導案を作成し、模擬授業を展開することで保健科教育を実践的に学んでいく。

1	ガイダンス (鈴木・岡山)
2	専門講師による保健教育の実際 (鈴木・岡山)
3	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備 (鈴木・岡山)
4	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備 (鈴木・岡山)
5	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備 (鈴木)
6	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)
7	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)
8	模擬授業と授業分析 (鈴木・岡山)
9	模擬授業と授業分析 (鈴木)
10	保健学習と保健指導の違い (鈴木・岡山)
11	保健指導実践 (鈴木・岡山)

12	保健指導実践（鈴木・岡山）
13	保健指導実践（鈴木・岡山）
14	まとめ（鈴木・岡山）
15	まとめ（鈴木・岡山）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指導案の作成や模擬授業準備の時間が必要（各模擬授業に対して3～4時間）

【事後学修】模擬授業等の振り返り、改善指導案の提出等（各模擬授業に対して1～2時間）

評価方法および評価の基準

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。到達目標の評価方法は模擬授業と筆記試験で評価する。評価基準は模擬授業作成の取り組みと模擬授業80%、筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された模擬授業コメントカードは授業内で評価をする。筆記試験は最終日のまとめにて返却し解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校保健体育教科書、高等学校保健体育教科書、文部科学省高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）

【推薦書】講義内で紹介する

【参考図書】文部科学省学習指導要領解説（小学校体育編・中学校保健体育編）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

免許取得に必要な科目であるため出席管理に留意し意欲的な参加を期待する。

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状(保健体育)取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

科目の概要

中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

到達目標

1. 中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解することができる。
2. 教科書や学習指導要領(保健体育編)の内容を深めることができる。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践することができる。

内容

1	体育の目標・内容の変遷をおさえ、現行の学習指導要領の内容を確認する。
2	運動の特性のとらえ方、体育学習の基本原則を確認する。
3	「A 体づくり運動」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
4	「B 器械運動」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
5	「C 陸上競技」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
6	「D 水泳」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。

7	「E. 球技」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
8	「F. 武道」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
9	「G. ダンス」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
10	「A 体づくり運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
11	「B 器械運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
12	「C 陸上競技」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
13	「E. 球技」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
14	「G. ダンス」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】高橋健夫「体育科教育学入門」大修館書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状（保健体育）取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

科目の概要

中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解することができる。
2. 教科書や学習指導要領（保健体育編）の内容を深めることができる。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践することができる。

内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	保健科教育の変遷をおさえる。
2	現行の学習指導要領の内容を確認する。
3	保健授業を体験し、保健分野の授業の基本原則を確認する。
4	保健分野の教材研究 「心身の機能の発達と心の健康」の教材を検討する。
5	保健分野の教材研究 「健康と環境」の教材を検討する。
6	保健分野の教材研究 「傷害の防止」の教材を検討する。
7	保健分野の教材研究 「健康な生活と疾病の予防」の教材を検討する。

8	指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を作成する。
9	指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を作成し、授業準備をする。
10	指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を完成し、授業準備を完了する。
11	模擬授業	「心身の機能の発達と心の健康」について模擬授業を実施する。
12	模擬授業	「健康と環境」について模擬授業を実施する。
13	模擬授業	「傷害の防止」について模擬授業を実施する。
14	模擬授業	「健康な生活と疾病の予防」について模擬授業を実施する。
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】家田重晴「保健科教育」杏林書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状(保健体育)取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

科目の概要

高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

到達目標

1. 高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解することができる。
2. 教科書や学習指導要領(保健体育編)の内容を深めることができる。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践することができる。

内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	現行の高等学校学習指導要領の「保健体育 体育」の内容を確認する。
2	高等学校保健体育の変遷を確認する。
3	「A 体づくり運動」「B 器械運動」の領域の特性を確認し、具体的な指導方法を学ぶ。
4	「C 陸上競技」「D 水泳」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。

5	「E. 球技」「F. 武道」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
6	「G. ダンス」「H. 体育理論」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
7	「内容の取扱い」を確認し、種目選択・領域選択の進め方を確認する。
8	「A. 体づくり運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
9	「B. 器械運動」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
10	「C. 陸上競技」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
11	「E. 球技」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
12	「G. ダンス」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
13	「H. 体育理論」「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」を実施し、指導方法を確認する。
14	「H. 体育理論」「豊かなスポーツライフの設計の仕方」を実施し、指導方法を確認する。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編

【推薦書】高橋健夫『体育科教育学入門』大修館書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状（保健体育）取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

科目の概要

高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

到達目標

1. 高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解することができる。
2. 教科書や学習指導要領（保健体育編）の内容を深めることができる。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践することができる。

内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	高等学校「保健体育 保健」の変遷をおさえる。
2	現行の学習指導要領の内容を確認する。
3	「保健」の授業を体験し、知識を活用する学習活動についての理解を深める。
4	「保健」の授業を体験し、実証的な問題解決を行う活動についての理解を深める。

5	「保健」の教材研究	「現代社会と健康」の教材を検討する。
6	「保健」の教材研究	「生涯を通じる健康」の教材を検討する。
7	「保健」の教材研究	「社会生活と健康」の教材を検討する。
8	「保健」の指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を作成する。
9	「保健」の指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を作成し、授業準備をする。
10	「保健」の指導案の作成	模擬授業を担当する単元の指導案を完成し、授業準備を完了する。
11	模擬授業	「現代社会と健康」で、模擬授業を実施する。
12	模擬授業	「生涯を通じる健康」で、模擬授業を実施する。
13	模擬授業	「社会生活と健康（環境と健康・環境と食品の保健）」で、模擬授業を実施する。
14	模擬授業	「社会生活と健康（労働と健康）」で、模擬授業を実施する。
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】高等学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】家田重晴『保健科教育』杏林書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中学校・高等学校（国語）教員免許取得のための必修科目。本科目では国語科の授業を行う際の基本的な知識・技能について学ぶ。

科目の概要

学習指導要領や学習指導理論について学んだ後、先行の優れた指導事例を参考に、学習指導の方法を実践的に学ぶ。実際に授業を担当する際の諸技法の基礎を学習する。

授業の方法（ALを含む）

- （１）該当分野に関する概要の理解、動向及び今日的課題の解説を行う。
- （２）学習指導研究に際し、グループワークなどを通して意見の交流を図る。

到達目標

- １．国語科教育の目標や内容、各分野の指導理論の大概を理解することができる。
- ２．先行の優れた指導事例を参考に、学習指導の方法を工夫することができる。
- ３．学習指導案の作成を通して授業実践の基礎的な知識、技法を習得することができる。

内容

この授業は、講義をもとに、グループワークやディスカッション、実技を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要、学習目標を知る
2	学習指導要領の概要について
3	学習指導要領と学習指導の実際について
4	教材研究の方法について
5	学習指導案の作成方法について
6	「知識及び技能」学習指導研究（１）
7	「知識及び技能」学習指導研究（２）
8	「話すこと・聞くこと」学習指導研究（１）
9	「話すこと・聞くこと」学習指導研究（２）

10	「書くこと」学習指導研究(1)
11	「書くこと」学習指導研究(2)
12	「読むこと」学習指導研究(1)
13	「読むこと」学習指導研究(2)
14	「伝統的な言語文化に関する事項」学習指導研究
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校学習指導要領(国語)を読み、次時に学習する領域について理解する。45分
演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成する。

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、学習指導要領の該当項目について熟読するなどして自身に足りない知識を補う。45分

評価方法および評価の基準

全体の評価 定期試験45% 学習指導案作成45% リアクションペーパー10% 総合評価60点以上で合格とする。

到達目標1 定期試験30%/45% リアクションペーパー3%/10%

到達目標2 定期試験30%/45% リアクションペーパー3%/10%

到達目標3 学習指導案作成30%/45% リアクションペーパー4%/10%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業のリアクションペーパー等を返却し、質疑に返答するなどして学習内容が深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」(文部科学省・東洋館出版社・148円)、「高等学校学習指導要領 国語編」(文部科学省・教育出版・313円)。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中学校・高等学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。「国語科教育法」の学習を受け、国語科教育に関する理解を深め、授業実践能力の育成を図る。

科目の概要

国語科教育の動向や今日的課題、新しい学習指導法について学んだ後、学習指導案の作成や模擬授業を行い、授業担当能力を培う。

授業の方法 (ALを含む)

- (1) 国語科教育の今日的課題について理解を深め、多様な言語活動例を知る。
- (2) 学習指導案の書き方を理解し、学習指導要領に基づいて学習指導案を立て、実践発表する。

到達目標

1. 「国語科教育法」で学んだ基礎的知識・技能をもとに、国語科教育の今日的課題や新しい学習指導法について理解を深めることができる。
2. 学習指導案の作成や模擬授業の実践を通して、実践力を身に付けることができる。

内容

この授業は、講義をもとに、グループワークやディスカッション、模擬授業実践を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	国語科教育の動向と今日的課題について
3	「話すこと・聞くこと」の授業研究 (1)
4	「話すこと・聞くこと」の授業研究 (2)
5	「書くこと」の授業研究 (1)
6	「書くこと」の授業研究 (2)
7	「読むこと」の授業研究 (1)
8	「読むこと」の授業研究 (2)

9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の授業研究
10	模擬授業演習(1)
11	模擬授業演習(2)
12	模擬授業演習(3)
13	模擬授業演習(4)
14	模擬授業演習(5)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校学習指導要領（国語）を読み、次時に扱う領域について理解を深めておく。45分

演習発表に際しては、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成しておく。

【事後学修】当該授業を振り返り、評価表等を記入するなどして学習内容について理解を深め、学習指導要領などを参考に自身の足りない知識を補う。45分

評価方法および評価の基準

全体の評価 定期試験45% 模擬授業45% リアクションペーパー10% 総合評価60点以上で合格とする。

到達目標1 定期試験45% リアクションペーパー5%/10%

到達目標2 模擬授業の実践45% リアクションペーパー5%/10%

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等を返却しながら、前回の授業内容について質問に答え、学習理解が深まるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版社・148円）、『高等学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。高等学校 (国語) 教員免許取得のための選択科目。

「国語科教育法 ・ 」と連携し、授業担当能力の向上を目指す。

科目の概要

中学校・高等学校の国語科の授業実践に必要な知識と技能について、講義と模擬授業演習により、学んでいく。

授業の方法 (ALを含む)

- (1) 中学校並びに高等学校における古典学習の今日的課題を理解し、古典学習の基礎的知識を学習する。
- (2) 中学校並びに高等学校における古典の学習指導案を作成し、実践発表する。

到達目標

1. 国語科教育法 ・ の学習を踏まえ、国語科の授業づくりに必須の事項を理解することができる。
2. 中学校「国語」における伝統的な言語文化の指導方法を修得することができる。
3. 高等学校「国語総合」における古典学習の指導の工夫をすることができる。

内容

この授業は講義をもとに、グループワークや実践によって学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	学習指導要領を読み、古典の学習について知る
3	中学校「国語」授業実践研究 (1)
4	中学校「国語」授業実践研究 (2)
5	中学校「国語」授業実践研究 (3)
6	中学校「国語」授業実践研究 (4)
7	高等学校「国語総合」授業実践研究 (1)
8	高等学校「国語総合」授業実践研究 (2)
9	高等学校「国語総合」授業実践研究 (3)
10	模擬授業演習 (1)
11	模擬授業演習 (2)

12	模擬授業演習(3)
13	模擬授業演習(4)
14	模擬授業演習(5)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校および、高等学校学習指導要領（国語）を読み、次時に学習する領域について理解する。演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成しておく。45分

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、学習指導要領の該当箇所を熟読するなどして自身に足りない知識を補う。45分

評価方法および評価の基準

全体の評価 定期試験45% 学習指導の実践45% リアクションペーパー10% 総合評価60点以上で合格とする。

到達目標1 定期試験30%/45% リアクションペーパー3%/10%

到達目標2 定期試験30%/45% リアクションペーパー3%/10%

到達目標3 授業実践30%/45% リアクションペーパー4%/10%

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパー等を返却し、質疑に答えるなどして理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・東洋館出版社・148円）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。高等学校 (国語) 教員免許取得のための選択科目。

「国語科教育法」の内容を発展させ、授業担当能力の一層の向上を図る。

科目の概要

国語科教育の動向や新たな授業実践の方法について学んだ後、教科書教材をもとに、自己の創意工夫を加えて学習指導案を作成し、模擬授業を行う。実践後は多角的検討を加え、授業改善を図る。

授業の方法 (ALを含む)

- (1) 高等学校学習指導要領の変遷と新学習指導要領改訂のねらいを理解する。
- (2) 高等学校における国語の授業研究を行い、実践発表する。

到達目標

1. 国語科教育の動向や課題、新しい授業実践の方法等について理解を深めることができる。
2. 中学校・高等学校における国語科の指導に必要な知識・技能を身に付け、創意工夫して授業を行うことができる。

内容

この授業は、講義をもとに、グループワークや模擬授業を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	高等学校学習指導要領の変遷について
3	単元学習に基づく国語科教育の授業実践について
4	高等学校「論理国語」授業実践研究 (1)
5	高等学校「論理国語」授業実践研究 (2)
6	高等学校「言語文化」授業実践研究 (1)
7	高等学校「言語文化」授業実践研究 (2)
8	高等学校「言語表現」授業実践研究 (1)
9	高等学校「言語表現」授業実践研究 (2)
10	模擬授業演習 (1)

11	模擬授業演習(2)
12	模擬授業演習(3)
13	模擬授業演習(4)
14	模擬授業演習(5)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校及び高等学校学習指導要領（国語）を読み、次時に学習する領域について理解する。

演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などの作成が必要。45分

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、自身に足りない知識を補う。45分

評価方法および評価の基準

全体の評価 定期試験45% 模擬授業等45% リアクションペーパー10% 総合評価60点以上で合格とする。

到達目標1 定期試験45% リアクションペーパー5%/10%

到達目標2 模擬授業等45% リアクションペーパー5%/10%

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパー等を返却し、前回の授業内容についての質疑応答を行い、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・東洋館出版社・148円）、「高等学校学習指導要領 国語編」（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職に関する科目 (教育課程及び指導法に関する科目)

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

授業の方法 (ALを含む)

講義と課題の演習を中心に行う。

到達目標

- (1)教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができること
- (2)情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができること
- (3)ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れること
- (4)児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につけること
- (5)情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができること
- (6)地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できること

内容

講義による解説とグループ活動による課題解決を行う。

1	情報の意義や役割の理解 (1)
2	情報の意義や役割の理解 (2)
3	情報教育の全体像と目標
4	普通教科「情報」のねらいと教科 (1)

5	普通教科「情報」のねらいと教科(2)
6	専門教科「情報」のねらいと教科(1)
7	専門教科「情報」のねらいと教科(2)
8	問題解決と演習の設計(1)
9	問題解決と演習の設計(2)
10	演習課題選択の観点
11	目標分析と年間指導計画の作成(1)
12	目標分析と年間指導計画の作成(2)
13	講義と実習の効果的な授業方法
14	グループワークの組織方法
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書該当箇所に目を通しておくこと(60分)

【事後学修】課題を出すので、その実施をおこなうこと(60分)

評価方法および評価の基準

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。60%以上を合格とする。

レポート 30%

- (1)教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができること
- (6)地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できること
- (5)情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができること

模擬授業 40%

- (2)情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができること

操作演習 30%

- (3)ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れること
- (4)児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につけること

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職に関する科目 (教育課程及び指導法に関する科目)

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

授業の方法 (ALを含む)

演習での指導案作成と模擬授業が中心となる。

到達目標

- (1)教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができること
- (2)情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができること
- (3)ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れること
- (4)児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につけること
- (5)情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができること
- (6)地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できること

内容

講義による解説とグループによる課題解決を行う。

1	科目の性格と目標 (1)
2	科目の性格と目標 (2)
3	科目の性格と目標 (3)
4	学習指導案と教材作成 (1)

5	学習指導案と教材作成(2)
6	学習指導案と教材作成(3)
7	学習指導案と教材作成(4)
8	模擬授業(1)
9	模擬授業(2)
10	模擬授業(3)
11	授業評価と学習評価の考え方(1)
12	授業評価と学習評価の考え方(2)
13	授業評価と学習評価の考え方(3)
14	これからの教科「情報」
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教材研究をおこなうこと(60分)

【事後学修】事後の評価をおこなうこと(60分)

評価方法および評価の基準

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。60%以上を合格とする。

レポート 30%

(1)教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができること

(6)地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できること

(5)情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができること

模擬授業 40%

(2)情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができること

操作演習 30%

(3)ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れること

(4)児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につけること

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	徳野 裕子、沼澤 奈都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

食育経験と学校での栄養教育経験のある教員が、教育実習へ行く前に食育に関する指導案を展開できる力を養うために実務経験を基に指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職課程における栄養教諭二種免許取得するために必要な科目であり、栄養教諭実習 ・ および栄養実践演習を行うための最初の科目である。

科目の概要

教職課程における栄養教諭に必要とする基本的な事項を学ぶ。 栄養教諭の役割および職務内容に関する事項、 幼児、児童及び生徒の栄養に関わる課題に関する事柄、 食生活に関する歴史及び文化的事柄、 食に関する指導の方法に関する事柄を修得する。

授業の方法（ALを含む）

リアクションペーパー、ディスカッション、模擬授業を行う。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- ・子どもの食に関する課題を把握する。
- ・食生活に関する問題の解決に向けた基礎的な能力を育む。
- ・栄養に関わる教育力を身につける。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼン、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1	栄養教諭の役割と職務内容について（徳野）
2	食に関する指導の基礎的知識 子どもの発育と発達（徳野）
3	食に関する指導の基礎的知識 身体計測、身体の働きとバランス（徳野）
4	食に関する指導の基礎的知識 子どもの味覚と調味、食とコミュニケーション（徳野）
5	子どもの健康・栄養に関する現状と課題（徳野）

6	学校給食（徳野）
7	食に関する指導の全体計画 「食に関する指導」（沼澤）
8	食に関する指導の全体計画 計画・実施・評価（沼澤）
9	教科などにおける食に関する指導「学習指導要領の理解と作成」（沼澤）
10	個別栄養相談指導について（沼澤）
11	学習指導案の作成 問題行動の特定と題材の設定（沼澤）
12	学習指導案の作成 学習指導案の作成と板書計画（沼澤）
13	学習指導案の作成 学習指導案の遂行に必要な資料媒体作成（沼澤）
14	栄養教育の模擬授業（沼澤）
15	まとめ（徳野、沼澤）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】栄養教育に関する知識を教科書や本から調べ、自分なりに内容を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】栄養教育の基本について復習することを必須とし、教職実習のために復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

子どもの食に関する課題を理解できる。平常点10%、模擬授業10% 食生活に関する問題の解決に向けた基礎的な能力を習得できる。平常点10%、小テスト20%、栄養に関わる教育力を身につける。媒体などの製作品20%、模擬授業30%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに振り返りを行い、ディスカッションを行い、学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】金田雅代 編著 「四訂 栄養教諭論—理論と実際」建帛社
 文部科学省 小学校指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編
 東山書房 食に関する指導の手引 第二次改定版

【参考図書】上田伸男編著 「学校栄養教育概論：学校における食の指導」（株）化学同人
 笠原賀子編著 「栄養教育実習ノート」医歯薬出版株式会社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

すでに教育実習に行くための意気込みについては確認できていると思いますが、実際に授業を通して対応できないと自分で判断した場合は、授業回数途中でも速やかに教員にその意向を伝えてください。

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

(寺田利枝) 学校現場における栄養教諭としての教員経験のある者が、その経験を活かしながら、「給食を生きた教材として展開する食育活動」について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 栄養教諭一種免許状を取得するための「栄養に係る教育に関する科目」として、3年次前期に履修する必修の科目である。管理栄養士国家試験受験資格取得のための学びの内容が、基礎知識として前提となる。小・中学校において児童・生徒へ食育を実施する栄養教諭 (教職免許) とはどんな資格か、求められていることは何かを学び、栄養教諭実践論における実際の食育の方法の学びへと展開していく。

科目の概要 児童生徒に対し、「食に関する指導」を行い、望ましい食習慣を身につけさせる食育に携わる役目を担う栄養教諭として、熟知しておくべき制度や背景などを学習する。さらに、食育を推進する「チーム学校」において、どのような役割を担うべきかを理解する。

授業の方法 (ALを含む) 講義に演習を組み込んだ形式で、グループワーク、討議・討論、模擬授業などを取り入れて学習効果を高める。

到達目標 (1) 栄養教諭の役割および職務内容について、説明できる (2) 幼児、児童・生徒の栄養に係わる課題を説明できる (3) 「チーム学校」における栄養教諭の役割を説明できる の3点とする。

内容

この授業は、講義を中心に毎時間、演習的な取り組みを行うアクティブラーニング形式で実施し、学びを深める。毎時間、ワークシートの提出を求め、次回の授業時にフィードバックする。

1	栄養教諭とは～栄養教諭制度創設の経緯と背景～	
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義	
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題	【グループワーク】
4	児童・生徒の発育・発達、学習能力の発達に応じた食に関する指導の在り方	【討議・討論】
5	栄養教諭の職務内容、使命と役割、求められる資質	【グループワーク】
6	児童・生徒の栄養の栄養に係る諸課題	【討議・討論】
7	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会状況	
8	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる諸制度や法令	
9	「チーム学校」で取り組む食育のPDCAサイクル	

10	「チーム学校」の中核となる栄養教諭の使命と役割	【討議・討論】
11	学校給食の意義	
12	学校給食の役割	【討議・討論】
13	給食時間における食育指導	
14	給食時間における食育指導案の作成	【グループワーク】
15	給食時間における食育指導の発表、まとめ	【模擬授業】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文部科学省〔食に関する指導の手引き-第二次改訂版-〕の該当する章を、事前に読んでおく。[60分]

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例を知っておく。[60分]

評価方法および評価の基準

毎回の授業やワークシートへの取り組み、模擬授業など（60%）、筆記試験（40%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）；毎回の取り組み、模擬授業（20%/60%）、筆記試験（10%/40%）

到達目標（2）；毎回の取り組み、模擬授業（20%/60%）、筆記試験（15%/40%）

到達目標（3）；毎回の取り組み、模擬授業（20%/60%）、筆記試験（15%/40%）

【フィードバック】各授業の最初に、前回授業のワークシートに対するコメントや質疑への返答をし、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】金田雅代編著〔四訂 栄養教諭論〕 建帛社

【参考資料】文部科学省〔食に関する指導の手引-第二次改訂版-〕〔新学習指導要領〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

(寺田利枝) 学校現場における栄養教諭としての教員経験のある者が、その経験を活かしながら、「給食を生きた教材として展開する食育活動」について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 栄養教諭一種免許状を取得するための「栄養に係る教育に関する科目」として、3年次後期に履修する必修の科目である。3年次前期に「栄養教諭実践論」で学習した内容を基礎とし、前提となる管理栄養士養成のための学びを加えて、具体的に応用・展開して児童・生徒へ指導する方法等を学んでいく。栄養教育実習 (栄養教諭実習、栄養教諭実習) の前段階に相当する。

科目の概要 栄養教諭の職務内容は、「食に関する指導」と「学校給食管理」である。給食を生きた教材とする学校現場での食育活動の実際を学び、PDCAサイクルで「チーム学校」としての食育を運営していく必要性と方法を学ぶ。その後、自ら指導案と教材・資料等を作成して授業運営の模擬を行い、教育効果の評価などから学びを得る。

授業の方法 (ALを含む) 講義に演習を組み込んだ形式で、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、模擬授業などを取り入れて、学習効果を高める。

到達目標は、(1) 食に関する指導方法が説明できる (2) 食に関する指導のための指導案、教材・資料を作成できる (3) 食に関する指導の模擬体験により授業運営ができる の3点とする。

内容

この授業は、講義を中心に毎時間、演習的な取り組みを行うアクティブラーニング形式で実施し、学びを深める。毎時間、ワークシートの提出を求め、次回の授業時にフィードバックする。

1	食文化の特徴や変遷と関連する栄養問題	【討議・討論】
2	「チーム学校」で取り組む、食に関する指導の意義とPDCAサイクル	
3	学校給食を核とした年間指導計画の立案	【レポート】
4	給食の時間における食に関する指導 (地場産品の活用を含む)	【グループワーク】
5	家庭科、技術・家庭科、体育科、保健体育科における食に関する指導	【グループワーク】
6	道徳、特別活動における食に関する指導	【グループワーク】
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導	【グループワーク】
8	食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導	【レポート】
9	食に関する指導の指導案作成	

10	作成した指導案の発表，相互評価	【プレゼンテーション】
11	模擬授業、指導効果の評価	【模擬授業】
12	模擬授業、指導効果の評価	【模擬授業】
13	学校と家庭と地域が連携した食に関する指導	【グループワーク】
14	食物アレルギー、肥満ややせに対する個別指導のあり方	
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文部科学省〔食に関する指導の手引き-第二次改訂版-〕の該当する章を、事前に読んでおく。[30分]

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索する。一つでも多くの指導案を知り、自分の指導案づくりに生かして取り組む。[60分]

評価方法および評価の基準

授業への参加度や毎回のワークシート（15%）、プレゼンテーション、模擬授業（45%）、および筆記試験（40%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）；参加度やワークシート（5%/15%）、模擬授業など（10%/45%）、筆記試験（20%/40%）

到達目標（2）；参加度やワークシート（5%/15%）、模擬授業など（20%/45%）、筆記試験（10%/40%）

到達目標（3）；参加度やワークシート（5%/15%）、模擬授業など（15%/45%）、筆記試験（10%/40%）

【フィードバック】各授業の最初に、前回授業のワークシートに対するコメントや質疑への返答をし、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】金田雅代編著〔四訂 栄養教諭論〕 建帛社

【参考資料】文部科学省〔食に関する指導の手引-第二次改訂版-〕〔新学習指導要領〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、教育実習の事前・中間・事後指導を行う。

科目の概要

国語科教育法 ~ および教科関連科目によって修得してきた知識・理論・方法論をふまえ、教育実習を効果的に行うために、事前・中間・事後指導を行う。

授業の方法 (ALを含む)

実習に際して必要な技能・能力を修得するために、グループワークや実技を行う。実習校で学び実践した内容については、プレゼンテーションを行い、それぞれの成果を確認し合う。質問・疑問・意見はリアクションペーパーを活用し、全体で共有する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】

学修目標 (到達目標)

- (1) 教員を目指す者としての責任を自覚し、その自覚をことばで表現することができる。
- (2) 参観実習および教壇実習に積極的に参加し、その気づきを次時に活かすことができる。
- (3) 教壇実習の経験を重ね、さらに、指導教員の指示を仰ぐことで授業実践能力を向上させることができる。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション【リアクションペーパー】【グループワーク】
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得【リアクションペーパー】【グループワーク】
- (3) 実習記録の作成法【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】
- (5) 実習校訪問【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

- (2) 実習日誌の中間提出【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】
- (3) 後期実習に向けての指導【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
- (2) 実習校訪問【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材研究などを行う。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、授業および模擬授業課題20点、教材研究20点、レポート30点、実習および実習日誌30点、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】中学校学習指導要領解説 国語編
- 【推薦書】【参考図書】授業において紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	若葉 京良、相馬 満利		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公立中学校での講師経験(保健体育科)を有する教員が担当する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法(ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目である。教育実習の事前・中間・事後指導をおこなう。

科目の概要

保健体育科教育法 ~ 及び教科関連科目によって習得してきた知識・理論を踏まえ、教育実習を実り多きものにするための指導をおこなう。

授業の方法(ALを含む)

教育実習を円滑に進めることができるよう、講義による解説、グループワークによる意見交換をおこなう。

到達目標

教員を目指す者としての責任を自覚し、授業実践能力の向上を図る。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成方法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施

(2) 実習校訪問

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の教材研究・指導案作成（通算で180分以上）

【事後学修】指導を受けた指導案の修正（通算で180分以上）

評価方法および評価の基準

教材研究や指導案作成の状況、勤務や・サービスへの理解、授業運営能力について評価を行う。授業参加及び課題を20点、レポートを40点、実習及び実習日誌40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポート内容について、学生同士で共有する機会を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 保健体育編

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に向けての事前準備、事後学修における計画的な取り組みを期待する

科目名	教育実習		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校の勤務経験のある教員が実際の現場での実務に沿った講義内容で展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法による中学校教諭・高等学校教諭一種免許状取得に必要な「教職に関する教科」の1つである。

科目の概要

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

授業の方法 (ALを含む)

実習に行くにあたって、講義で得た知識や方法を用いて実習に向けて学び深めていく。【討議・討論】

到達目標

1. 教師としての姿勢・目的意識及び倫理観を明確にする。
2. 教科に対して指導し又は授業を行うに要する、基礎的な知識・技能の獲得を目指す。

内容

1. 事前指導

(1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

2. 事後指導

(1) 教育実習報告会

- ・実習の総括

・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での予習が必要となる。(毎回60分程度)【事後学修】教育実習に向けて各自が必要とする項目の復習が必要となる。(毎回60分以上)

評価方法および評価の基準

提出物(3割)、報告会などの授業態度等(7割)を総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んだことを復習しておくこと。

科目名	教育実習		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教科関連科目・国語科教育法 ~ ・教育実習 で修得してきた内容をふまえる。

教育職員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校教諭一種「国語科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「国語科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)前期実習(選択)である。

科目の概要

学校現場での実習勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

授業の方法 (ALを含む)

配属校において教壇実習に取り組む。実習後は、教育実習日誌の記載事項について振り返りを行う。

【実習】

学修目標 (到達目標)

- (1) これまでに修得してきた教科、教育方法等に関する知識・理論を現場で活用することができる。(2) 実習を通して、自身に足りないところを自覚し、技能を改善することができる。
- (3) 教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

内容

協力校における参観実習および教壇実習からなる教育実習(3週間)を行う。専門教科の教授法に加えて、ホームルーム運営や特別活動等を通じて、学級経営のあり方についても実践的に学ぶ。【実習】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備(各授業に対して60分)

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

【推薦書】【参考図書】実習の様子を聞いたうえで適宜指導する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	若葉 京良、相馬 満利		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公立中学校での講師経験(保健体育科)を有する教員が担当する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法(ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法に定める教育実習のうち、中学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(選択)である。

科目の概要

学校現場での実務経験を通して、教職に関する自身の適性を見定める。

授業の方法(ALを含む)

講義や演習で得た知識や技術、指導法を学生が実習することにより学びを深めていく。【実技】

到達目標

これまでに習得してきた教科教育方法等に関する知識・理論を活用して、教員に必要とされる実践的な指導力を身につける。

内容

協力校において教育実習を行う。

専門科目の教授法に加え、道徳・特別活動などの指導、学級経営についても実践的に学ぶ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備(通算180分以上)

【事後学修】実習日誌の整理及び授業後のプリント・小テスト、持ち越した質問に対する回答の準備(通算180分以上)

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載内容について振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書に従うこと。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習校での積極的な取り組みを期待する

科目名	教育実習		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校の勤務経験のある教員が実際の現場での実務に沿った講義内容で展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法による中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に必要な「教職に関する科目」の1つである。

科目の概要

中学校または高等学校にて、中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に向けた実習を規定に沿い実施する。

授業の方法 (ALを含む)

授業のイメージを持ち、講義で得た知識や方法を学生が実習することにより学びを深めていく。【実技】

到達目標

1. 教科関連科目・教科教育法, 教育実習 で修得したことをふまえて, 教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学習した教科, 授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し, 教員を目指す者としての実践的能力をつける。
2. 学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習校での授業計画等、事前予習が必要である。(各1~2時間程度) 【事後学修】実習後の記録整理・授業の振り返りなど各自必要な項目の復習が必要である。(各2~3時間程度)

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等を実習校による評価(10割)とし総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習において授業ができるよう準備する。

科目名	教育実習		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、教育実習の事前・中間・事後指導を行う。

科目の概要

国語科教育法 ~ および教科関連科目、教育実習 ・ によって修得してきた知識・理論・方法論をふまえ、自身の教育実習での取り組みを振り返る。

授業の方法 (ALを含む)

グループワークや実技を中心に行う。実習校で学び実践した内容については、プレゼンテーションを行い、それぞれの成果を確認し合う。質問・疑問・意見はリアクションペーパーを活用し、全体で共有する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】

学修目標 (到達目標)

- (1) 教員を目指す者としての責任を自覚し、その自覚をことばで表現することができる。
- (2) 教育実習を振り返り、学びの成果をプレゼンテーションすることができる。
- (3) 教壇実習の経験を重ね、さらに、指導教員の指示を仰ぐことで授業実践能力を向上させることができる。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション【リアクションペーパー】【グループワーク】
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得【リアクションペーパー】【グループワーク】
- (3) 実習記録の作成法【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】
- (5) 実習校訪問【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
- (2) 実習日誌の中間提出【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】

(3) 後期実習に向けての指導【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(知識)】

3. 事後指導

(1) 教育実習総括反省会の実施【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

(2) 実習校訪問【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材研究などを行う。(各授業に対して60分)

【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、授業および模擬授業課題20点、教材研究20点、レポート30点、実習および実習日誌30点、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中学校学習指導要領解説 国語編

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	若葉 京良、相馬 満利		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公立中学校での講師経験(保健体育科)を有する教員が担当する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法(ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法に定める教育実習のうち、中学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(選択)である。

科目の概要

学校現場での実務経験を通して、教職に関する自身の適性を見定める。

授業の方法(ALを含む)

協力校において教育実習を行う。

到達目標

これまでに習得してきた教科教育方法等に関する知識・理論を活用して、教員に必要とされる実践的な指導力を身につける。

内容

協力校において教育実習を行う。

専門科目の教授法に加え、道徳・特別活動などの指導、学級経営についても実践的に学ぶ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備

【事後学修】実習日誌に整理、授業後のプリント・小テスト、持ち越した質問に対する回答の準備

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書に従うこと。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習校での積極的な取り組みを期待する

科目名	教育実習		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校の勤務経験のある教員が実際の現場での実務に沿った講義内容で展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法による中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に必要な「教職に関する科目」の1つである。

科目の概要

教科関連科目, 教科教育法, 教育実習, で修得したことを踏まえて実際に授業を担当する。学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教員としての適正を見極める。

授業の方法 (ALを含む)

授業のイメージを持ち、講義で得た知識や方法を学生が実習することにより学びを深めていく。【実習】

到達目標

これまでに学習した知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的指導を実施することができる。

内容

教育実習校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当する授業準備その他実習校の指示に従う。(各2~3時間) 【事後学習】教育実習における自己の実践を振り返り、実習報告会に向け準備を行う。(各1時間程度)

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等を実習校による評価(10割)とし総合評価60点以上を合格とする。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	養護実習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭としての実務経験を活かし、実習指導に当たる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「教職に関する科目」の1つである。

科目の概要

教育職員免許法による養護教諭一種免許状取得のための科目である。

授業の方法 (ALを含む)

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法等を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。【グループディスカッション】【ロールプレイ】

到達目標

1. 実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。
2. 児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。
3. 連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

1. 事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における研究課題の設定について

(3) 実習校訪問について

(4) ロールプレイングによる模擬演習

(5) 既習科目の復習

2. 事後指導

(1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で予習が必要となる。(毎回1時間程度)【事後学習】養護実習に向けて各自が必要とする項目について資料やノートを作成し復習をすることが必要となる。(毎回2時間以上)

評価方法および評価の基準

提出されたレポート等については報告会の場でフィードバックする。提出物(3割)、報告会などの授業態度等(7割)を総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書:「学校保健実務必携」(学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育職員免許法による養護教諭一種免許状取得の必修科目である。実習要件科目をすべて履修し単位を取得していること。

科目名	養護実習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭としての実務経験を活かし、実習指導に当たる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「教職に関する科目」の1つである。

科目の概要

教育職員免許法による養護教諭一種免許状取得のための科目である。

実習校において4週間の実習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

到達目標

1. 実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。
2. 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。
3. 児童生徒への指導の体験。
4. 事後措置の方法の体験。
5. 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動

9. 集団による保健指導等の実際

10. 教育者としての倫理観の体得について

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で予習が必要となる。（毎回2時間程度）【事後学修】養護実習に向けて各自が必要とする項目の復習が必要である。（毎回2時間以上）

評価方法および評価の基準

実習校から提出される勤務記録と実習評価資料及び実習記録簿に基づき評価する。実習校から提出される勤務記録と実習評価資料及び実習記録簿等を実習校による評価（10割）とし、総合評価60点以上を合格とする。実習巡回、実習後の指導において適宜フィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育職員免許法による養護教諭一種免許状取得の必修科目である。実習要件科目をすべて履修し単位を取得していること。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	徳野 裕子、幸田 真紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元栄養教諭の経験から、実習をしっかりと行うことができたかどうか評価することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、栄養教諭二種免許状を取得するための必修科目であり、教職に関する科目の一つである。取得した単位を中学校教諭一種及び高等学校教諭一種取得のための単位として充当することが可能な科目の一つでもある。

科目の概要

小中学校において5日間の栄養教諭実習を行う。栄養教諭実習では、実習を通して栄養教育を総合的に認識でき、学校現場での実践的な指導を学ぶ。実習を通して、問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を身に付ける。教育者として自覚を持てるようにする。

授業の方法 (ALを含む)

実際の現場で実習を行う。

到達目標

栄養教育について体験的・総合的な認識を得る。

大学で習得した教科や教職に関する知識や理論、技術を生かし、学校現場での児童・生徒の発達に即した実践的指導を行うことができる。

教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を養う。

教育者としての愛情と使命感を深め、教員としての能力や適性についての自覚できる。

内容

実習校での実習について

- (1) 校長・指導教諭等からの指導
- (2) 児童及び生徒への個別な相談、指導の実習
- (3) 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習
- (4) 食に関する指導の連携・調整の実習
- (5) 学校の教育活動の参観や参加
- (6) 保護者や地域との連携について

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】栄養教育実習 の実習前の授業について見直し、研究授業を含めて実習への準備をしっかりとる。

【事後学修】実際の実習を実習ノートをしっかり記入し、実習終了後実習内容についてまとめる。

評価方法および評価の基準

栄養教育について体験的・総合的な認識を習得できる。 大学で習得した教科や教職に関する知識や理論、技術を生かし、学校現場での児童・生徒の発達に即した実践的指導を行うことができる。 教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を養うことができる。 教育者としての愛情と使命感を深め、教員としての能力や適性についての自覚できる。

教育実習期間中の出席状況（25%）、実習ノートの内容（25%）、実習学校からの評価（50%）などを参考とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

実習ノートの内容および実習学校からの評価から、教育者として自覚ができる情報を提供する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習の手引き、文部科学省 小学校学習指導要領解説特別編、食に関する指導の手引

【推薦書】藤沢良知他 よくわかる栄養教諭 同文書院

【参考図書】実習に関連する授業で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで勉強してきたことを基本に、さらなる成長ができる充実した実習を行うためにも、しっかり準備をしてほしい。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

(寺田利枝) 学校現場における栄養教諭としての教員経験を活かしながら、「給食を生きた教材として展開する食育活動」について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 教育職員である栄養教諭実習一種免許状を取得するための「教職に関する科目」として、4年次に履修する必修の科目である。小学校あるいは中学校における栄養教育実習「栄養教諭実習」を実施するための、事前・事後指導を中心にすすめる。栄養教育実習「栄養教諭実習」は、教育実習施設の受け入れ時期によって4年次のいずれかの時期になるため、本科目も連動しての開講となる(4年次通年科目)。

科目の概要 栄養教育実習の始まる前に、教育実習の意義や内容を理解し、教育職員としての栄養教諭の職務内容を明確化する。知識や技術を再確認して、意欲的に教育実習に取り組むことができる自信を導く。また、教育実習後には実習での学びを整理し、問題点や今後の課題を抽出し、報告をまとめる。最後に、今後の栄養教諭の職務活動の展開を考えていく。

授業の方法 (ALを含む) 実習、討議・討論、レポート、プレゼンテーション、グループワークを取り入れて、学習効果を高める。

到達目標 (1) 教育職員として持つべき自覚を説明できる (2) 対象となる児童・生徒に必要な適切な指導案や、媒体・教材を作成できる (3) 実施した栄養教育実習に関して発表・討議を行い、よりよい「食に関する指導」の提案や立案につなげることができる の3点である。

内容

この授業は、小・中学校での教育実習への取り組みのための事前・事後指導科目であるため、自ら設定した課題解決型の学修を行って学びを深める。

1	栄養教育実習 事前指導	栄養教育実習の意義・目的	【実習】
2	栄養教育実習 事前指導	学校の現状と課題、求められる資質や能力	【実習】
3	栄養教育実習 事前指導	学習指導の工夫、実践的指導力	【実習】
4	栄養教育実習 事前指導	授業研究、教科別指導のとらえ方	【実習】
5	栄養教育実習 事前指導	意欲、目標の明確化と心構え	【実習】

6	栄養教育実習	事前指導	実習日誌の記録法や指導案立案ポイント	【実習】
7	栄養教育実習	事前指導	教育実習校の実習計画の把握	【実習】
8	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成	【実習】
9	栄養教育実習	事前指導	模擬 ・ 討議	【実習】【討議・討論】
10	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成	【実習】
11	栄養教育実習	事前指導	模擬 ・ 討議	【実習】【討議・討論】
12	栄養教育実習	事後指導	気づきのまとめ	【レポート】
13	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会準備	【プレゼンテーション】
14	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会	【プレゼンテーション】
15	まとめ	栄養教諭の職務活動の今後の展開を考える		【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教育職員としての視点を持つことを常に意識し、教育実習以前の指導案や媒体の作成、以後の改善した報告のまとめなどに充分に取り組む。[60分]

【事後学習】栄養教諭として求められることを理解し、提供すべき正しく新しい情報を自ら収集して教育実習に備える。また、他者の実習報告から多くの学びを得る。[30分]

評価方法および評価の基準

事前・事後指導への参加態度30%、指導案作成への取り組み40%、提出課題レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】金田雅代編著〔四訂 栄養教諭論〕 建帛社

【参考資料】文部科学省〔新学習指導要領〕〔食に関する指導の手引-第二次-改訂版〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

【推薦書】笠原賀子、岩間範子、香川明夫、松下広美著〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕 医歯薬出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	徳野 裕子、幸田 真紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元栄養教諭教員による実習にあたっての心得、および実習中に注意しなければならないこと、指導案の作成と現場の意見を反映することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、栄養教諭二種免許状を取得するための必修科目であり、教職に関する科目の一つである。また、栄養教諭実習と必ず同時に取得する必要がある。なお、取得した単位を中学校教諭一種及び高等学校教諭一種取得のための単位として充当することが可能な科目の一つでもある。

科目の概要

この授業は、栄養教諭実習 の栄養教諭実習を行うために必要な事前・事後指導を行う。事前実習では、栄養教諭実習が円滑に行えるよう、栄養教諭実習に必要な知識を獲得し、準備する。実習後は、実習にて習得した知識や技能をさらに深め、実習報告会を通して、自身の実践を総括ができる力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

模擬授業 プレゼンテーション

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

栄養教諭実習についての包括的な知識を獲得する。

栄養教諭実習に必要なスキルを習得する。

実習を総括できる力をつける。

内容

事前実習 1回～10回、事後実習 11回～15回の授業となる。

1	オリエンテーション
2	栄養教諭実習の意義
3	栄養教諭実習の目的
4	栄養教諭実習の心構え
5	栄養教諭実習の実際

6	栄養教諭実習の実際
7	実習指導案の作成・検討
8	実習指導案の作成・検討
9	実習指導案の作成・検討
10	実習指導案の作成・検討
11	実習の反省
12	実習の反省
13	実習報告会
14	実習報告会
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】栄養教諭実習に必要な内容について予め予習を行う。
【事後学修】栄養教諭実習に必要で気がついた事柄を深くまとめる。

評価方法および評価の基準

栄養教諭実習についての包括的な知識を獲得できる。栄養教諭実習に必要なスキルを習得できる。
栄養教諭教職実習を総括できる力をつける。授業への出席を含む平常点(50%)、提出物・レポート・報告内容等(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】
事前準備のためのアドバイス、事後の報告会の評価結果を伝える。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】金田雅代 編著 「四訂 栄養教諭論—理論と実際」建帛社
文部科学省 小学校指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編
東山書房 食に関する指導の手引 第二次改定版
- 【参考図書】上田伸男編著 「学校栄養教育概論：学校における食の指導」(株)化学同人
笠原賀子編著 「栄養教育実習ノート」医歯薬出版株式会社
笠原賀子編著 「栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂」医歯薬出版, 文部科学省

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

栄養教諭実習の現状をしっかりと把握した上で準備をしてほしい。また、指導案の作成などは授業外の活動が多くなるため日頃の生活に余裕ももってもらいたい。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

(寺田利枝) 学校現場における栄養教諭としての教員経験のある者が、その経験を活かしながら、「給食を生きた教材として展開する食育活動」について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は、教育職員である栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、「栄養教諭実習」での事前指導が前提となる。実施時期 (4年次のいずれかの時期) ならびに実習内容は実習施設校によって異なるが、いずれにおいても、教育現場である小学校や中学校での実際を観察、体験することで、教育職員としての知識や技術を確実に身につける。

科目の概要 実習施設校である小学校や中学校での1週間の教育実習を行う。学校現場での職務について理解を深め、学校給食やその他の特別活動、各教科における担任や各教科担当者の教育活動、栄養教諭の教育活動を体験する中で、食の指導のあり方を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む) 教育実習施設校における1週間の学びであり、研究授業・研究協議を含む。

到達目標 (1) 教員に関する理解を深め、その責任を説明できる (2) 成長過程にある児童・生徒の特徴を把握し、誠意をもって接する (3) 大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践して、熟練する の3点とする。

内容

この授業は、実際の小・中学校における教育実習であり、実践から学びを深める。

1	オリエンテーション (指導教諭から学校経営、校務分掌、サービスなどの説明)
2	学校給食・栄養教育の現状把握
3	「食に関する指導」の全体計画の理解
4	個別的な相談、指導の実習 ~ 相談・指導の場の観察実習・参加実習
5	担任による学級活動 (給食の時間) における指導の観察実習・参加実習
6	~ 給食放送指導・配膳指導・後片付け指導など ~
7	生徒集会、委員会活動、クラブ活動、学校行事における指導の観察実習・参加実習
8	担任と栄養教諭による給食の時間での指導の観察実習・参加実習
9	担任と栄養教諭によるその他の特別活動における栄養教育の観察実習・参加実習

10	教科担当者と栄養教諭による各教科における指導の観察実習・参加実習
11	特別活動や各教科における授業実習の指導案作成・実施・評価
12	食に関する指導の連携・調整の実習～校内における連携・調整の役割～
13	食に関する指導の連携・調整の実習～家庭・地域との連携・調整の役割～
14	研究授業の指導案作成・実施・評価
15	研究協議、研究授業ならびに教育実習の反省とまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】栄養教諭実習 での事前指導の内容を復習し、確認しておく。[1週間教育実習中、毎日30分]

【事後学修】教育実習ノートを整理し、観察実習、参加実習、授業実習、そして研究授業での学びをそれぞれまとめる。[1週間教育実習中、毎日60分]

評価方法および評価の基準

実習終了後に施設校長から得る評価（実習校の教育実習評価票の結果）を60%、教育実習ノートの記録を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】笠原賀子 岩間範子 香川明夫 松下広美〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕 医歯薬出版

【参考資料】文部科学省〔新学習指導要領〕〔食に関する指導の手引-第二次改訂版-〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	岡山 睦美、松岡 敬明、日出間 均、羽田 邦弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／高等学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（国語）／高等学校教諭一種免許状（国語）／中学校教諭一種免許状（保健体育）／高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校の教員として勤務し、管理職の経験のある教員が、各々の経験に基づき、教育現場で求められる実践的な知識を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状を取得するうえでの必修科目である。

教員として求められる資質能力の修得を確認すると共に、「履修カルテ」を参照し、各自の学修課題に即して、指導教員の助言を得ながら学修する。提出された課題やレポートは、コメントを付して返却する。4年間の学びの総まとめに位置する科目である。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。

グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1) 使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2) 社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3) 生徒理解や学級経営に関する事項
- (4) 教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

複数の所属学科から成るチームを編成し、テーマについて話し合ったり理解を深めたりする。また、実習での反省をふまえ、指導案を書き直し模擬授業を実施、授業内容について討議・検討を行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

- (1) 将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。
- (2) 課題を克服するために必要な知識・技能を身につけることができる。
- (3) 複数の学科の学生と意見交流することで、広い視野を持って教育を考えることができる。

内容

グループワークやディスカッションを取り入れながら、教育現場に通用する実践力を養う。

1	オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）【リアクションペーパー】【グループワーク】
---	--

2	教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	学校の組織的な運営について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	学級担任の役割や実務についての理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	保護者や地域との連携協力について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
9	教科指導：実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	教科指導：指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	教科指導：全体での模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
13	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
14	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
15	模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備（各授業に対して60分）

【事後学修】振り返りのためのレポート作成（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】授業への参加度（20％） レポート課題（30％）プレゼンテーション（30％）討議におけるパフォーマンス（20％）を総合的に評価し、相互評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	若葉 京良、松岡 敬明、日出間 均、羽田 邦弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／高等学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（国語）／高等学校教諭一種免許状（国語）／中学校教諭一種免許状（保健体育）／高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校の教員として勤務し、管理職の経験のある教員が、各々の経験に基づき、教育現場で求められる実践的な知識を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状を取得するうえでの必修科目である。

教員として求められる資質能力の修得を確認すると共に、「履修カルテ」を参照し、各自の学修課題に即して、指導教員の助言を得ながら学修する。提出された課題やレポートは、コメントを付して返却する。4年間の学びの総まとめに位置する科目である。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。

グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- （1）使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- （2）社会性や対人間関係能力に関する事項
- （3）生徒理解や学級経営に関する事項
- （4）教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

複数の所属学科から成るチームを編成し、テーマについて話し合ったり理解を深めたりする。また、実習での反省をふまえ、指導案を書き直し模擬授業を実施、授業内容について討議・検討を行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

- （1）将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。
- （2）課題を克服するために必要な知識・技能を身につけることができる。
- （3）複数の学科の学生と意見交流することで、広い視野を持って教育を考えることができる。

内容

グループワークやディスカッションを取り入れながら、教育現場に通用する実践力を養う。

1	オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）【リアクションペーパー】【グループワーク】
---	--

2	教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	学校の組織的な運営について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	学級担任の役割や実務についての理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	保護者や地域との連携協力について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
9	教科指導：実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	教科指導：指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	教科指導：全体での模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
13	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
14	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
15	模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備（各授業に対して60分）

【事後学修】振り返りのためのレポート作成（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】授業への参加度（20％） レポート課題（30％）プレゼンテーション（30％）討議におけるパフォーマンス（20％）を総合的に評価し、相互評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	星野 祐子、松岡 敬明、日出間 均、羽田 邦弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／高等学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（国語）／高等学校教諭一種免許状（国語）／中学校教諭一種免許状（保健体育）／高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校の教員として勤務し、管理職の経験のある教員が、各々の経験に基づき、教育現場で求められる実践的な知識を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状を取得するうえでの必修科目である。

教員として求められる資質能力の修得を確認すると共に、「履修カルテ」を参照し、各自の学修課題に即して、指導教員の助言を得ながら学修する。提出された課題やレポートは、コメントを付して返却する。4年間の学びの総まとめに位置する科目である。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。

グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1) 使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2) 社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3) 生徒理解や学級経営に関する事項
- (4) 教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

複数の所属学科から成るチームを編成し、テーマについて話し合ったり理解を深めたりする。また、実習での反省をふまえ、指導案を書き直し模擬授業を実施、授業内容について討議・検討を行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

- (1) 将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。
- (2) 課題を克服するために必要な知識・技能を身につけることができる。
- (3) 複数の学科の学生と意見交流することで、広い視野を持って教育を考えることができる。

内容

グループワークやディスカッションを取り入れながら、教育現場に通用する実践力を養う。

1 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）【リアクションペーパー】【グループワーク】

2	教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	学校の組織的な運営について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	学級担任の役割や実務についての理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	保護者や地域との連携協力について理解を深める。【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
9	教科指導：実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	教科指導：指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	教科指導：全体での模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
13	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
14	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【リアクションペーパー】【グループワーク】【模擬授業】
15	模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備（各授業に対して60分）

【事後学修】振り返りのためのレポート作成（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】授業への参加度（20％） レポート課題（30％）プレゼンテーション（30％）討議におけるパフォーマンス（20％）を総合的に評価し、相互評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職実践演習（養護教諭）		
担当教員名	綿井 雅康、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

福祉団体での実務経験のある教員が、事前ガイダンスの一部を担い、現場における円滑な活動のための指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

義務教育学校（小学校・中学校）の教員免許取得で義務づけられた「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目である。集中講義として登録し、4月～5月にかけて、昼休みや5時限目などを活用して学修する。

科目の概要

「介護等体験」における「福祉施設体験（5日間）」と「特別支援学校体験（2日間）」に関して、福祉の専門性や特別支援教育の専門性に関する基礎的な知識や態度について、各分野での実務経験を有する教員等が解説する。さらに、「介護等体験」を修得した上級学年学生による体験報告を聞くことにより、体験に望む態度や視点を養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、事前指導は解説や報告を中心として、履修生同士のディスカッションを展開する。事後指導においては、レポート作成とその内容の報告を行う。

到達目標

1. 「介護等体験」での学びに資する「福祉の視点や態度」を身につける
2. 体験の受け入れ先にいる利用者に対する基礎的な理解を深める
3. 「共生社会」や「インクルーシブ教育」の実践を担う教員の役割に対する意識をもつ

内容

本科目は「介護等体験」での学修を確かなものとするために、以下の事前・事後指導に基づいた活動を学修とする。

事前指導：社会福祉施設及び特別支援学校に関する諸事項についての学修

事後指導：「介護等体験」での体験ノートのみとめ

4月に開催（予定）のガイダンスにおいて、授業日程、体験期間・受け入れ先を説明する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

事前指導：指定された教科書を読み、概要を把握しておくこと。また、理解できなかった点についても明確にして、事前指導または体験参加中において解決できるよう準備すること[90分]。

体験中：当日（翌日）の活動内容について概要を想定しておくこと[30分]。

事後指導：各々の体験全体を振り返り、知識として体得したこと、伸長したり獲得した態度や能力について、総括的にまとめること[60分]。

【事後学修】

事前指導：新たに理解したことをまとめる[30分]。

体験中：日々の活動を振り返り、その日の活動を時系列に沿って振り返るとともに、各活動を通した摩耶日や気づきを文章化すること[60分]。 体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します（通算で180分）。

評価方法および評価の基準

授業での課題への取り組み（20％）と事後報告書（80％）を総合的に評価し、60点以上を合格とします。

到達目標1．課題（10％／20％）、報告書（40％／80％）

到達目標2．課題（10％／20％）、報告書（30％／80％）

到達目標3．報告書（10％／80％）

【フィードバック】報告書についてはコメントを返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ギアース教育新社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

該当する教員免許取得希望学生においては、教職支援課からの案内を見落とさないこと。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	徳野 裕子、松岡 敬明、日出間 均、羽田 邦弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各教員それぞれ専門分野の実務経験があり、その経験を反映させた授業を行うことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状取得上の必修科目である。栄養教諭として求められる資質能力の修得の確認をねらいとし、「履修カルテ」を参照し、各自自己の学修課題に即して指導教員の助言を得ながら学修する。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項
- (2)社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3)生徒理解や学級経営に関する事項
- (4)教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

振替入りシート、グループワーク、模擬授業、ディスカッション

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- (1) 将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。
- (2) 課題を克服するために必要な知識・技能を身につけることができる。
- (3) 複数の学科の学生と意見交流することで、広い視野を持って教育を考えることができる。

内容

- 第1回 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）
- 第2回 教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。
- 第3回 児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。
- 第4回 学校の組織的な運営について理解を深める。
- 第5回 いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理科を深める。
- 第6回 学級担任の役割や実務についての理解を深める。
- 第7回 保護者や地域との連携協力について理解を深める。

第8回 教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。

第9回 教科指導 : 実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。

第10回 教科指導 : 指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。

第11回 教科指導 : 全体への模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。

第12回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討

第13回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討

第14回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討

第15回 模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】栄養教諭実習で学んだことから討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】栄養教諭実習で学んだ事を振り返りのためのレポート作成

評価方法および評価の基準

(1) 将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。

(2) 課題を克服するために必要な知識・技能を身につけることができる。

(3) 複数の学科の学生と意見交流することで、広い視野を持って教育を考えることができる。

評価 参加状況20%、レポート課題30%、プレゼンテーション30%、討議におけるパフォーマンス20%を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書 これまで使用してきた教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育実習およびそれまでの授業をしっかり振り返り、最後のまとめを行い、将来にむけての改善点を見つけてほしい。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教育実習の中で、特に食育活動について専門的な立場から授業を構成していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状取得上の必修科目である。栄養教諭として求められる資質能力の修得の確認をねらいとし、「履修カルテ」を参照し、各自自己の学修課題に即して指導教員の助言を得ながら学修する。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項
- (2)社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3)生徒理解や学級経営に関する事項
- (4)教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

振替入りシート、グループワーク、模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

これまで実践の場で学んできたことをテーマごとに振り返る課題解決型授業

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができる。

その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容

第1回 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）（60分）

第2回 教職の意義・教員の役割、職務内容について。（60分）

第3回 児童・生徒の成長、生徒指導について。（60分）

第4回 学校の組織的な運営について。（60分）

第5回 いじめ・不登校等の今日的な教育課題について。（60分）

第6回 学級担任の役割や実務について。（60分）

第7回 保護者や地域との連携協力について。（60分）

第8回 教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。(60分)

第9回 教科指導 : 実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。(60分)

第10回 教科指導 : 指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。(60分)

第11回 教科指導 : 全体への模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。(60分)

第12回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討(60分)

第13回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討(60分)

第14回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討(60分)

第15回 模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。(60分)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】栄養教諭実習で学んだことから討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】栄養教諭実習で学んだ事を振り返りのためのレポート作成

評価方法および評価の基準

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができる。その解決に必要な知識・技能を身につける。評価 参加状況10% , 授業準備状況10% , 模擬授業30% , プレゼンテーション30% , 討議におけるパフォーマンス20%を総合的に評価し、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書 これまで使用してきた教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育実習およびそれまでの授業をしっかり振り返り、最後のまとめを行い、将来にむけての改善点を見つけてほしい。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	井上 久美子、松岡 敬明、日出間 均、羽田 邦弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校・中学校での管理職経験のある教員が、教育現場で求められる実践的な知識や技能の指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許状を取得する上での必修科目であり、教員として求められる資質能力の修得が、主たるねらいとなる。

さらに、栄養教諭が他免許種の教員と連携して、チーム学校での食育を推進する意義と方法を理解することがねらいである。

「履修カルテ」を参照し、各自の学修課題に即して、指導教員の助言を得ながら学修する。

学びを整理するために課題やレポートを提出し、添えられたコメントから、さらに学びを深める。

4年間の教職の学びの総まとめに位置する科目である。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。

グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2)社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3)生徒理解や学級経営に関する事項
- (4)教科内容等の指導力に関する事項

授業の方法（ALを含む）

異なる免許種、複数の所属学科から成るグループを編成し、設定したテーマについて話し合い、理解を深める。

また、教育実習での反省をふまえ、指導案を改善して模擬授業を実施し、その内容について検討・討議を行う。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

- (1) 将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、それを指摘することができる。
- (2) 課題を解決するために必要な、必要な知識や技能を身につけることができる。
- (3) 他の免許種や学科の学生と意見を交流することで、教育や食育に対して、広い視野を持つことができる。

内容

第1回 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）【グループワーク】【リアクションペーパー】

- 第2回 教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第3回 児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第4回 学校の組織的な運営について理解を深め、チーム学校のあり方を考える。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第5回 いじめ・不登校、アレルギーを含む食の問題等、今日的な教育課題に関し理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第6回 学級担任の役割や実務についての理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第7回 保護者や地域との連携協力について理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第8回 教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 第9回 教科指導 : 実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第10回 教科指導 : 指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第11回 教科指導 : 全体への模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第12回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第13回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第14回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討【グループワーク】【リアクションペーパー】
- 第15回 模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】栄養教諭教育実習での学びから、討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備(各授業に対して60分)
- 【事後学修】本授業を振り返り、栄養教諭教育実習での学びに新たに加わった、気づきや知識に関するレポート作成(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

- 授業への取り組み(20%)、レポート(30%)、プレゼンテーションならびに討議におけるパフォーマンス(50%)を総合的に評価し、相互評価60点以上を合格とする。
- 到達目標(1); 授業への取り組み(5%/20%)、レポート(10%/30%)
- 到達目標(2); 授業への取り組み(5%/20%)、レポート(10%/30%)、プレゼンなど(20%/50%)
- 到達目標(3); 授業への取り組み(10%/20%)、レポート(10%/30%)、プレゼンなど(30%/50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】各教科の学習指導要領、教科書 これまで使用してきた教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- 教育実習およびそれまでの授業をしっかり振り返り、最後のまとめを行い、将来にむけての改善点を見つけてほしい。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の授業づくりB		
担当教員名	松岡 敬明、狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校において、特別活動や総合的な学習の時間の指導経験を有する教員が、指導計画や指導法について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、中学校教諭一種免許状 (保健、保健体育、国語)、高等学校教諭一種免許状 (保健、保健体育、国語、情報) 養護教諭一種免許状、栄養教諭一種・二種免許状を取得するための「教育の基礎的理解に関する科目等」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に当たり、必修科目です。

科目の概要

「総合的な学習の時間」の目標や内容、指導法及び「特別活動」の目標や内容、指導法について理解を深め、実際に授業を行うための具体的な技術・方法について学びます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 1 総合的な学習の時間について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 2 特別活動について理解し、授業指導に生かすことができる。

内容

1	オリエンテーション「総合的な学習の時間・特別活動とは」(松岡)
2	特別活動の目標と展開 (松岡)
3	学級活動について(1) 目標と内容 (松岡)
4	学級活動について(2) 指導計画 (松岡)
5	生徒会活動について(1) 目標と内容 (松岡)
6	生徒会活動について(2) 指導計画 (松岡)
7	総合的な学習の時間の意義 (狩野)
8	総合的な学習の時間の内容 (狩野)

9	学校行事について(1)目標と内容 (松岡)
10	学校行事について(2)指導計画 (松岡)
11	総合的な学習の時間の指導計画 (狩野)
12	総合的な学習の時間の評価 (狩野)
13	総合的な学習の時間の指導計画・指導案の作成 (狩野)
14	特別活動の指導計画の指導計画・指導案の作成 (松岡)
15	まとめ 授業全般にわたるレポート(松岡)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前時に示されたワークシート等(各授業に対して45分)

【事後学修】他の履修生の授業レポートを読み考察する(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業レポート、指導計画・指導案の作成等80%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 授業レポート、指導計画・指導案の作成等(40%/80%) 授業への参加度(10%/20%)

到達目標2 授業レポート、指導計画・指導案の作成等(40%/80%) 授業への参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポートをシェアリングする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (平成29年7月版)

中学校学習指導要領解説 特別活動編 (平成29年7月版)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	衛生学		
担当教員名	佐藤 一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

養護教員を目指すために必要な知識となる感染症およびその病原体について講義する。

科目の概要

感染症を防ぎ、健やかな日々を送るためには知識や経験に基づく適切な予防が重要である。特に、養護教員を目指す学生は、感染症およびその病原体について幅広い知識を必要とする。そのため、感染症予防のため発生要因、病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症について講義する。

授業の方法 (ALを含む)

この科目は教科書の内容を基本に、座学による講義を中心に豆テスト、ディスカッションを取り入れながら、感染症および微生物について学びを深めていく。【討議・討論】

到達目標

- 日常生活で罹りうる感染症を意識できるようになる。
- 感染症に対する予防などを行うための基礎的な知識を身につける。
- 感染症を起こす病原体の性質について理解を深める。

ことを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 4 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この科目は教科書の内容を基本に、座学による講義を中心にディスカッションを取り入れながら、感染症および微生物について学びを深めていく。

1	感染症に関する基本的理解【豆テスト】【ディスカッション】
2	感染症成立のための三要因【豆テスト】【ディスカッション】
3	免疫【豆テスト】【ディスカッション】
4	細菌の形態、培養、分類などに関する概論【豆テスト】【ディスカッション】
5	細菌の変異、遺伝的特徴【豆テスト】【ディスカッション】
6	ウイルス【豆テスト】【ディスカッション】
7	真菌【豆テスト】【ディスカッション】
8	原虫【豆テスト】【ディスカッション】

9	寄生虫【豆テスト】【ディスカッション】
10	感染症の診断・治療・予防・防御【豆テスト】【ディスカッション】
11	感染症各論1 細菌感染症【豆テスト】【ディスカッション】
12	感染症各論2 ウイルス感染症【豆テスト】【ディスカッション】
13	感染症各論3 その他の感染症【豆テスト】【ディスカッション】
14	感染症の疫学【豆テスト】【ディスカッション】
15	まとめ 講義内容の振り返りと総括【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】：事前に当該単元や関連書籍を通読しておくことが望ましい（各回に対して60分）。

【事後学修】：何を理解し、何が理解できなかったのか整理し、次回講義時に質問できるようにまとめる（各回に対して60分）。

評価方法および評価の基準

【評価方法】豆テストおよび期末試験によって評価する。

教科書や講義内容よりも新しい知見を原記載となる論文等の資料とともに提示した場合、1件につき先着1名をS評価とする。

【評価の基準】豆テスト30%、期末試験70%とし、合計60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された豆テストには、適宜コメントを記載し翌週の講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本田武司（編）はじめの一步のイラスト感染症・微生物学。羊土社。ISBN978-4-7581-2023-4。

【参考書】日本学校保健会（編）学校において予防すべき感染症の解説。丸善出版。ISBN978-4-903076-11-9。

阿部章夫（著）もっとよくわかる！感染症 病原因子と発症のメカニズム。羊土社。ISBN978-4-7581-2202-3。

池内昌彦 他「エッセンシャルキャンベル生物学」丸善。ISBN: 978-4621300992。など。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	学校保健		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の特徴

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みの基礎的事項(特に保健管理)について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。
2. 学校保健における基礎的事項について理解する。
3. 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

この授業はグループワーク・ケーススタディを取り入れながら学校保健領域の更なる学びを深めていく。

1	学校保健の意義と関連法規について
2	学校における疾病管理の実際について
3	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
4	学校において予防すべき感染症について
5	学校における感染症の対応について
6	学校環境衛生の目的について
7	学校環境衛生の基準について
8	学校環境衛生の実施について
9	心身の健康課題への対応について
10	保健室経営と保健室経営計画について
11	学校における保健組織活動について
12	学校安全計画と安全管理について
13	学校管理下の事故・災害について

14	学校給食について
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の内容について課題を出す（1時間程度）

【事後学修】授業については復習することを必須とし、教員採用試験に向けて復習ノートを作成しておく。（各授業に対して1時間程度）

評価方法および評価の基準

筆記試験(講義中実施する5回の小テスト)9割、レポート・授業参加度1割により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第15版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

養護教諭免許取得のための必須科目として「解剖生理学」を広く標準的に学習した後に本科目を履修し、養護教諭が必要とする専門知識としての病態生理学について理解する。

科目の概要

学校の健康診断に関わる疾患、学校感染症、アレルギー性疾患や、小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

学校健診に関わる疾患の検査法と病態について理解する。

学校感染症の種類と症状、病態および法令について理解する。

小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 1 (身長・体重、栄養状態、体格)
2	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 2 (視力、色覚、眼、聴力、耳鼻咽喉科、皮膚、歯)
3	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 3 (結核、心臓、尿、寄生虫卵、その他)
4	学校感染症とその他の感染症
5	学童・思春期に罹患する疾患 1 免疫、アレルギー、膠原病
6	学童・思春期に罹患する疾患 2 循環器疾患
7	学童・思春期に罹患する疾患 3 腎・尿路系疾患
8	学童・思春期に罹患する疾患 4 消化器疾患
9	学童・思春期に罹患する疾患 5 血液・腫瘍疾患
10	学童・思春期に罹患する疾患 6 神経・筋・精神疾患
11	その他の小児の疾患 1 新生児疾患

12	その他の小児の疾患 2 遺伝性疾患・染色体異常
13	その他の小児の疾患 3 代謝・内分泌疾患
14	その他の小児の疾患 4 救急疾患
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】解剖生理学でまなんだ各臓器の形態や機能について確認しておくこと(45分)。

【事後学修】講義でとりあげた各疾患について、病態生理を理解すること(45分)。

評価方法および評価の基準

最終講義の際に筆記試験(80点満点)を実施し、講義への参加状況の評価(20点満点)を加え、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業についてまとめ、質疑応答を行い、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】ナーシング・グラフィカ 小児看護学 小児の疾患と看護 中村友彦・編 MCメディカ出版

【推薦書】看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 監修 日野原重明 中山書店

【参考図書】養護教諭講座/10 解剖学 生理学 監修 杉森守那 著 杉浦正輝 東山書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	救急処置活動		
担当教員名	鈴木 雅子、岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭・看護師の実務経験がある教員が担当し、学校現場に即した講義内容を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

科目の概要

養護教諭として適切な救急処置活動をするための知識と技術を学ぶ。基本的事項を学習したのち、児童生徒に多くみられる、内科的・外科的な疾患に対する救急処置の方法を学習する。

授業の方法 (ALを含む)

清潔操作、心肺蘇生法、止血法・包帯法などの実技を通し、実践的な講義展開を行う【実技】

到達目標

1. 学校における救急処置の手順を理解できる
2. 各症状における救急処置の判断と処置の方法を理解できる
3. 救急処置の基本的技術を習得できる

内容

この講義は養護教諭に必要な救急処置の実技を中心に進めるため、受講生の積極的な姿勢を求めます。

1	学校で行う救急処置の基本的な考え方について (鈴木・岡山)
2	基本的技術 バイタルサイン (鈴木・岡山)
3	学校で行う内科的症状に対する救急処置について (発熱・熱中症) (岡山)
4	学校で行う内科的症状に対する救急処置について (頭痛・頭部外傷など) (岡山)
5	学校で行う内科的症状に対する救急処置について (胸痛・呼吸苦など) (岡山)
6	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について (腹痛・腹部打撲など) (岡山)
7	ケースワークと事例対応 (鈴木)
8	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について (眼科・耳鼻科・歯科など) (鈴木)
9	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について (外傷など) (鈴木)
10	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について (熱傷など) (鈴木)
11	基本的技術 清潔操作 (鈴木・岡山)

12	基本的技術 包帯法（鈴木・岡山）
13	基本的技術 RICE処置（鈴木・岡山）
14	まとめ（筆記試験）（鈴木・岡山）
15	まとめ（実技試験）（鈴木・岡山）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】救急処置に必要な解剖生理学等、事前に予習をしておくことが必要。（毎授業1時間以上）【事後学修】学修した技術を確実なものにするために実技等の復習が必要。（毎授業2時間以上）

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法は実技試験と筆記試験で評価する。到達目標1～3を実技試験50%と筆記試験50%で評価し、各6割以上を合格とする。【フィードバック】提出されたレポート、小テストの結果はコメントを記載し翌週以降に返却し解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント 監修/山内豊明 東山書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

養護教諭一種免許状取得に必要な科目である。免許取得希望者は履修すること。

試験で60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の日程はLive Campusにて通知する。

科目名	養護概説		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭・看護師の実務経験がある教員が担当し、学校現場に即した講義内容を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。

科目の概要

前半は養護の歴史・理念・原理を理解したうえで、自分なりの養護観を持つ。後半は養護活動のための基礎的知識を身につける

授業の方法 (ALを含む)

本科目は講義による解説を中心に、グループワークによる調査及びディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- ・学校保健における養護教諭の職務を理解し自分の養護観が持てる
- ・養護教諭の活動に必要な実践力を身につけることができる

内容

前半はグループワークを中心に進める。

後半は講義と演習を組み合わせで進める。

1	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
2	養護教諭の職務について1【グループワーク】
3	養護教諭の職務について2【討議・討論】
4	養護の原理と概念について
5	学校における救急処置【グループワーク】
6	健康診断の法的根拠と実施計画
7	健康診断の実施項目と留意点
8	健康診断の実際と工夫

9	健康観察の方法
10	感染症の予防と保健管理
11	アレルギー疾患における保健管理
12	慢性疾病の保健管理【グループワーク】
13	学校環境衛生検査項目と実施方法
14	学校環境衛生検査項目と実施方法
15	学校環境衛生に関する活動における養護教諭の役割【討議・討論】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回予習のための課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

評価方法および評価の基準

評価方法は筆記試験と通常の授業の提出物及び授業の参加態度で評価する。到達目標の評価基準は筆記試験（小テストを含む）9割、通常の授業の提出物及び授業の参加態度を1割として評価し、60点以上を合格とする。【フィードバック】テストの結果は次の授業で返却し解説をする。提出物はコメントをつけて翌週の授業で返却するとともに、全体で共有する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：講義中に示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

養護教諭一種免許状取得に必要な科目である。免許取得希望者は履修すること。

総合評価で60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の日程はLive Campusにて通知する。

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭として現場経験のある教員が学校保健の実務に沿った講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

養護教諭の職務を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしながら、必要となる実際の事項について作成する、あるいは計画すること等について具体的に学ぶ。

科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準など、学校保健における実務内容について講義と演習による体験的な学習をする。

授業の方法 (ALを含む)

本講義では、これまでの講義で得た知識を基に、実際に考え、行うことを通じて体験的に学びを深めていく。【レポート】
【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

養護教諭の職務内容を理解し、実践することができる。

養護実習に向けて、保健だよりの作成や事前指導の意義を理解し、工夫して作成することができる。

内容

この授業は養護実習に向けて健康診断の実施計画や保健だよりの作成など養護教諭の職務内容を実践的に学んでいく。

1	オリエンテーション 教育者としての養護教諭と保健室の役割
2	「保健だより」を利用した保健指導の実際
3	「保健だより」作成の実際
4	「保健だより」作品発表 自己評価・他者評価
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (1)
6	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (2)
7	歯科検診の実際
8	定期健康診断事後処理の実際

9	定期健康診断の事前指導・事後指導
10	定期健康診断の事前指導・事後指導
11	定期健康診断の事前指導・事後指導
12	宿泊行事や行事における養護教諭の役割と準備
13	個別保健指導と教職員、他機関との連携
14	児童生徒の現代的課題への対応
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】養護実習に向けて各授業についてその概要を事前に確認しておくこと。（各授業に対して60分は必要）

【事後学修】各授業で実践した内容を養護実習に向けて整理すること。（各授業に対して60分は必要）

評価方法および評価の基準

養護教諭の職務内容を理解し、実践することができる。[レポート及び資料作成40%、演習への取組み態度10%]

養護実習に向けて、保健だよりの作成や事前指導の意義を理解し、工夫して作成することができる。[レポート及び資料作成40%、演習への取組み態度10%]

レポートおよび資料作成の提出と内容90%、演習への取組み態度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

新版・養護教諭 執務の手引き第10版 石川県養護教育研究会編 東山書房

「児童生徒等の健康診断マニュアル」平成27年度版 日本学校保健会

【参考図書】

「保健室利用状況に関する調査報告書」平成28年度調査結果 公益法人日本学校保健会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

提出されたレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」「養護概説」を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、養護教諭としての活動を実践するための能力を養うことを目指す。

科目の概要

養護活動のための基礎的な知識を身につける。具体的には保健指導、保健室経営、組織活動を取り上げる。

授業方法：演習

到達目標 (ディプロマポリシーとの関係)

養護教諭として必要な保健指導、保健室経営、組織活動に関する知識を説明でき、事例における課題発見と解決のための考察に積極的に取り組むことができる。

内容

講義とグループワークによる演習を組み合わせる。

1	保健教育の領域とそれぞれの特質について
2	保健教育における養護教諭の役割について
3	特別活動における保健指導の実際について
4	個別の保健指導の実施について
5	学校医、学校歯科医、学校薬剤師の職務内容について
6	学校における保健組織活動について (校内組織)
7	学校における保健組織活動について (校外組織)
8	学校安全と危機管理について
9	災害時における子どもの健康課題について
10	災害時における心のケアの実際について
11	災害時における心のケアの実際について 2
12	保健室経営と保健室経営計画について
13	保健室経営計画の立案について
14	保健室経営計画 留意点と工夫点について
15	保健室経営計画の評価について

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎授業時に次回の予習のための課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】授業で学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

評価方法および評価の基準

筆記テスト(小テストを含む)を7割と授業の提出物の内容を3割として評価し、60点以上を合格とする。テストの結果は次の授業で返却し、解説をする。提出物はコメントをつけて翌週の授業で返却をするとともに全体で共有する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：新養護概説<第11版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社、児童生徒等の健康診断マニュアル 日本学校保健会

推薦書：学校保健実務必携 第3次改訂版 第一法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている。「学校保健」「養護概説」「看護学」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指す。

科目の概要

前半は健康診断を取り上げ、基礎的知識の確認をしたのちに、健康診断の教育的意義に注目して演習を行う。後半は現代的な健康課題を取り上げ、学校・養護教諭としての対応について考える。

授業方法 演習

学修目標 (ディプロマ・ポリシーとの関連)

これまでに学んだ専門的知識を確認するとともに、健康診断および様々な健康課題への対応について積極艇に演習に取り組み、考えたことを表現することができる。

内容

1	児童生徒の健康診断の実際：法的根拠 方法 (講義)
2	児童生徒の健康診断の実際：方法及び技術的基準 (講義)
3	児童生徒の健康診断の実際：方法及び技術的基準 (演習)
4	児童生徒の健康診断の実際：総合評価・事後措置 (GW)
5	就学時の健康診断：法的根拠 方法 (講義)
6	就学時の健康診断：方法及び技術的基準 (演習)
7	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校 (講義、個人演習)
8	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校 (グループ討議)
9	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校 (発表、全体討議)
10	子どもの現代的な健康課題とその対応 いじめ (講義、グループ討議)
11	子どもの現代的な健康課題とその対応 いじめ (発表、全体討議)
12	子どもの現代的な健康課題とその対応 L G B T、外国籍の子ども等 (講義、グループ討議)
13	子どもの現代的な健康課題とその対応 L G B T、外国籍の子ども等 発表、全体討議)
14	子どもの現代的な健康課題とその対応 こどもの貧困 (講義、グループ討議)
15	子どもの現代的な健康課題とその対応 こどもの貧困 (発表、全体討議)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習・事後学修】

学校保健・養護概説の学修を前提として授業を進める。各自で学校保健，養護概説を復習したのちに授業に参加する必要がある。事前予習・事後学修ともに1時間程度の時間を要する。

評価方法および評価の基準

適宜小テストを実施する。テストを7割、演習後（グループ討議、全体討議）後のレポートを3割とし60点以上を合格とする。テスト、レポートはコメントを入れ授業内で返却し解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職演習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭・看護師の実務経験がある教員が担当し、学校現場に即した講義内容を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている。

科目の概要

「学校保健」「養護概説」「看護学(臨床実習及び救急処置を含む)」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は講義による解説を中心に、実技やグループワークを取り入れた授業を行う。【実技】【グループワーク】

到達目標

これまでに学んだ知識と技術を生かしながら、さまざまな状況において、養護教諭としての確かな判断と対応力を身に付けることができる

内容

1	子どもの健康課題に関すること(アレルギー疾患の現状と対応 講義)
2	子どもの健康課題に関すること(アレルギー事例を用いたGWと討議)
3	子どもの健康課題に関すること(児童虐待の現状と対応 講義)
4	子どもの健康課題に関すること(児童虐待事例を用いたGWと討議)
5	子どもの健康課題に関すること(医療的ケアの現状と対応)
6	子どもの健康課題に関すること(医療的ケアの事例を用いたGWと討議)
7	事例を用いた救急処置の演習 内科的な対応【実技】
8	事例を用いた救急処置の演習 外科的な対応【実技】
9	事例を用いた救急処置の演習 体育的行事【実技】
10	事例を用いた救急処置の演習 感染症対策【実技】
11	事例を用いた救急処置の演習 校外学習【実技】

12	総合演習【実技】
13	総合演習【グループワーク】
14	学校保健に関する最新統計 疾病関連（講義）
15	学校保健に関する最新統計 生徒指導関連（講義）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】【事後学修】1．2年，3年前期の教職科目の学修を前提に授業を行う。各自で復習をして授業に臨む必要がある。事前予習・事後学修ともに1時間程度の時間を要する。

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法は小テストとレポートで評価する。到達目標の評価基準は授業内で行う小テストを80%、レポート内容を20%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】テスト、レポートはコメントを入れて授業内で返却し解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・岡田加奈子他 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 東山書房
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の日程はLive Campusにて通知する。

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児看護学を専門とした看護師および看護教員経験が、本授業の展開に大いに関与している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

教職課程科目として設定しており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要：

学内での講義・看護支援のロールプレイ・学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

授業の方法 (ALを含む)

学内講義、ロールプレイ、臨床講義の3要素で授業をすすめていく。【リアクションペーパー】【グループワーク】【ロールプレイ】【レポート(表現)】【ミニテスト】

到達目標：

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいのか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校(特別支援学校を含む)で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス【リアクションペーパー】【グループワーク】
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応【リアクションペーパー】【ミニテスト】
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応【リアクションペーパー】【ミニテスト】
4	スポーツ障害、整形外科疾患【リアクションペーパー】【ミニテスト】
5	性感染症、女性ホルモンの働きと月経の仕組み【リアクションペーパー】【ミニテスト】
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (発熱・頭痛・倦怠感)【ロールプレイ】
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難)【ロールプレイ】
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (掻痒感・外傷・打撲)【ロールプレイ】

10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（意識障害・けいれん・不定愁訴）【ロールプレイ】
11	臨床看護実習の授業の振り返りと整理まとめ【グループワーク】
12	臨床講義（病院の機能と役割、他職種の連携と機能、病院における感染管理の実際）【レポート（表現）】
13	臨床講義（小児救急看護の実際）【レポート（表現）】
14	臨床講義（慢性疾患および障害のある子どもへの看護、病院と学校との連携）【レポート（表現）】
15	臨床講義（生命と性の教育）【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまでの授業の総括になるため、毎回指定する単元についてこれまで作成してきた学びノートおよび教科書を復習し、授業内での質問に答えられるように準備しておく（60分）。

【事後学修】講義については学びノートに加筆する。演習で体験した事例について、SOAP形式の記録を作成する。臨床講義で学習したことは、学校現場でどのように活かせるのか考察する（60分）。

評価方法および評価の基準

筆記試験（35点）、演習の参加状況（30点）、臨床講義レポート（35点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。但し、上記3つの視点でいずれかが得点の60%に満たない場合は、単位は未認定となる。

到達目標1. 筆記試験（10/35）、演習の参加状況（5/30）、臨床講義レポート（10/35）

到達目標2. 筆記試験（10/35）、演習の参加状況（5/30）、臨床講義レポート（10/35）

到達目標3. 筆記試験（10/35）、演習の参加状況（20/30）、臨床講義レポート（10/35）

到達目標4. 筆記試験（5/35）、臨床講義レポート（5/35）

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑応答に返答し、学習理解が深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

大谷尚子他編著 『養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本』 日本

小児医事出版

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

積極的に学校の保健室でボランティア等の体験をし、現場での子どもたちの対応を学んでみましょう。

科目名	情報と職業		
担当教員名	岡田 桂治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

NTT研究所に於ける情報関連の基礎研究、NTTグループ会社経営等を通じての実務経験

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職課程取得のための必修科目という性格上、幅広い知識が必要であり、情報関連の科目だけでなく 文系の科目とも係わりが深い

科目の概要

情報とは何かについて考えるとともに、現存する膨大な情報の海から必要・有効な情報を自ら選択する、情報化が企業にどのような影響を与えているか、法律上教育の権利等はどの様に規定されているか、知的財産権はどの様に守られているか等を学習する

授業の方法 (ALを含む)

講義を基本とするが、個別テーマについて、グループ毎に、調査・まとめ・発表・討論も行う
到達目標.

- (1) 情報の基本的性質を理解し、ネットから有効情報を効率よく検索、活用できるようになる
- (2) 特許・著作権等知的財産権の知識を習得し、知財検定2級程度の問題を解けるようになる
- (3) 組織の基本とその役割を理解し、企業不祥事の原因究明・基本的考察を行えるようになる

内容

以下の内容を中心とした講義と共に、ディスカッションを通じて自ら考える力を養成する。

講義の方法は白板、配布資料による講義とディスカッションである。

1. 情報とは何か/自律的取捨選択の重要性
2. 情報化を支える基盤技術/基礎知識
3. 情報化による労働環境の変遷
4. 組織の基本形態
5. 日本国憲法/教育基本法概要
6. 労働白書に見る働き方の現状
7. どのような社会人に成りたいか
8. 企業の求める人材とは
9. 特許法概要
10. 特許権紛争の事例研究
11. 著作権法概要
12. 著作権紛争の事例研究
13. 不正競争防止法概要/営業秘密
14. 企業のセキュリティー
15. 企業不祥事の原因分析

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

各回とも配布資料の復習と同時にインターネット検索による疑問点の解明等 自律的学習を行う事

学習時間は個人の自主性に任せる

評価方法および評価の基準

授業に対する意欲・発言内容、テストの結果等を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 (1) ; 平常点20%、(2) ; 平常点20%、テスト40%、(3) ; 平常点20% を目安とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

白板・配布資料による授業であり、教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

情報は与えられるものでなく自ら取得するという基本姿勢、興味を持つ積極性、行動力を期待する

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

福祉団体での実務経験のある教員が、事前ガイダンスの一部を担い、現場における円滑な活動のための指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

義務教育学校(小学校・中学校)の教員免許取得で義務づけられた「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目である。集中講義として登録し、4月～5月にかけて、昼休みや5時限目などを活用して学修する。

科目の概要

「介護等体験」における「福祉施設体験(5日間)」と「特別支援学校体験(2日間)」に関して、福祉の専門性や特別支援教育の専門性に関する基礎的な知識や態度について、各分野での実務経験を有する教員等が解説する。さらに、「介護等体験」を修得した上級学年学生による体験報告を聞くことにより、体験に望む態度や視点を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、事前指導は解説や報告を中心として、履修生同士のディスカッションを展開する。事後指導においては、レポート作成とその内容の報告を行う。

到達目標

1. 「介護等体験」での学びに資する「福祉の視点や態度」を身につける
2. 体験の受け入れ先にいる利用者に対する基礎的な理解を深める
3. 「共生社会」や「インクルーシブ教育」の実践を担う教員の役割に対する意識をもつ

内容

本科目は「介護等体験」での学修を確かなものとするために、以下の事前・事後指導に基づいた活動を学修とする。

事前指導：社会福祉施設及び特別支援学校に関する諸事項についての学修

事後指導：「介護等体験」での体験ノートのみとめ

4月に開催(予定)のガイダンスにおいて、授業日程、体験期間・受け入れ先を説明する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

事前指導：指定された教科書を読み、概要を把握しておくこと。また、理解できなかった点についても明確にして、事前指導または体験参加中において解決できるよう準備すること[90分]。

体験中：当日(翌日)の活動内容について概要を想定しておくこと[30分]。

事後指導：各々の体験全体を振り返り、知識として体得したこと、伸長したり獲得した態度や能力について、総括的にまとめること[60分]。

【事後学修】

事前指導：新たに理解したことをまとめる[30分]。

体験中：日々の活動を振り返り、その日の活動を時系列に沿って振り返るとともに、各活動を通した摩耶日や気づきを文章化すること[60分]。 体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します（通算で180分）。

評価方法および評価の基準

授業での課題への取り組み（20％）と事後報告書（80％）を総合的に評価し、60点以上を合格とします。

到達目標1．課題（10％／20％）、報告書（40％／80％）

到達目標2．課題（10％／20％）、報告書（30％／80％）

到達目標3．報告書（10％／80％）

【フィードバック】報告書についてはコメントを返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ギアース教育新社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

該当する教員免許取得希望学生においては、教職支援課からの案内を見落とさないこと。

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公立中学校での講師経験 (保健体育科) を有する教員が担当する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

義務教育学校 (小学校・中学校) の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目です。集中講義で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

科目の概要

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と「特別支援学校体験2日間」について、福祉の専門性や特別支援教育の専門性について各分野の先生方から話を聞いたり、先輩たちが経験した話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

授業の方法 (ALを含む)

介護等体験が円滑に進められるよう、体験先となりうる施設の特徴や体験内容について解説をおこないます。体験後は、各自で体験内容をまとめた体験ノートを提出します。

到達目標

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導 : 社会福祉施設、及び特別支援学校について
- 介護等体験 : 福祉施設5日間、特別支援学校2日間の、計7日間
- 事後指導 : 体験ノートの作成・整理と提出

それぞれ、4月のガイダンスにて、講義日程、体験期間、体験場所等について説明します。

教職支援課 (教職課程センター) の掲示等をよく見ておくようにしてください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 テキストを読み、社会福祉施設や介護等体験の概要についての理解を深め、疑問点があれば事前指導中に解決できるようにします。（授業ごと60分）

【事後学修】 介護等体験終了後に、振り返りレポートを作成し、教職支援課に提出します。（合計180分）

評価方法および評価の基準

事前事後指導における受講態度（20%）、体験への参加（30%）、事後報告書の内容（50%）を総合評価し、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下のテキストを使用します。各自で購入した上で、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ジヤース教育新社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習校での積極的な取り組みを期待する。

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

義務教育学校(小学校・中学校)の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目である。集中講義で登録し、4月～5月にかけての時期に実施する。昼休みや5時限目などを活用して指導する。

科目の概要

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と「特別支援学校体験2日間」について、福祉の専門性や特別支援教育の専門性について各分野の教員から話を聞く。さらに、先輩たちが経験した話を聴き、介護等体験が実り多いものになるよう勉強する。

授業の方法 (ALを含む)

事前指導としては、先輩の話を聞いたり、受講生同士でグループワークやペアワークを行ったりして、介護現場や特別支援学校で学ぶ意義を確かなものにする。リアクションペーパーを活用し、特に授業で言及したい意見・感想・疑問については、次時に言及する。

【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】

学修目標 (到達目標)

- (1) 高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養う。
- (2) 特別支援学校での体験を通して、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深める。
- (3) 経験した内容を振り返り、知識や理解の定着に努める。

内容

学習内容は以下である。

事前指導 : 社会福祉施設、及び特別支援学校についての学修

【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】

介護等体験: 福祉施設5日間、特別支援学校2日間の、計7日間

【レポート(知識)】

事後指導 : 体験ノートの執筆・整理と提出

【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】

それぞれ、4月のガイダンスにおいて、講義日程、体験期間、体験場所等について説明を行う。

教職支援課(教職課程センター)の掲示等をよく見ておくように。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を持ち授業に臨む。(各授業に対して60分)

【事後学修】 体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

事前事後指導における受講態度(リアクションペーパー、グループワークなど)(20%)

体験への参加(30%)

事後報告書の内容(レポート、プレゼンテーション)(50%)

を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

次のテキストを使用する。各自購入し、事前指導に参加すること。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ジヤース教育新社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など